

第3章 各年代別の現状について ～アンケートの結果～

1 アンケート調査の概要

村民の健康意識と対応、および実践について、全世代を乳幼児期、学童期、思春期、青壮年期、高齢期の5つのライフステージに分けて調査を行いました。調査方法は、住民基本台帳からの抽出とし、乳幼児期、学童期、思春期は全数。その他の年代は対象者を無作為で抽出しました。令和5年9月11日に郵送、アンケート提出締め切りを10月16日と

しました。その後1か月後までに届いたものをデータ入力し、分析を行いました。ネットでの回答も可とし、締め切りは郵送と同様としました。

質問項目は、「1.属性」

「2.健康関心」「3.食生活」「4.運動」「5.睡眠」「6.精神保健」「7.喫煙」「8.飲酒」「9.薬物」「10.歯科衛生」「11.健康対策」「12.他」の計12領域で構成しました。

調査結果については、各年代別の単純集計、性・年齢別集計、クロス集計のほかに、同じ質問項目については全年代を比較するなどの分析を行いました。また、清川村の前々回、前回調査結果、ならびに他市町の調査結果とも比較し、清川村の今回調査の特徴を導き出しました。データの比較については、検定をかけ、統計学的に有意に差があるものを抽出しました。

調査票回収状況

No.	対象群	対象年齢	人口	送付数	回収数	回収率
1	乳幼児期	0～6 歳	77	81	43	53.1%
2	学童期	7～12 歳	115	114	29	25.4%
3	思春期	13～19 歳	145	143	31	21.7%
4	青壮年期	20～64 歳	1,701	1,010	252	25.0%
5	高齢期	65 歳以上	744	419	231	55.1%
計			2,782	1,767	586	35.7%

比較調査一覧

No.	調査地区	調査時期
1	清川村	2008 年末
2	中井町	2011 年夏
3	葉山町	2012 年始
4	清川村	2012 年末
5	松田町	2013 年始
6	逗子市	2014 年春
7	湯河原町	2015 年春
8	逗子市	2022 年夏
9	松田町	2022 年冬
10	清川村	2023 年秋

検定結果の見方

「差があるかどうか」を統計学的に調べたものです。
(カイニ乗検定という方法で検定をかけた結果です)

表示	意味		統計学的な表現
*	少なそうだ	多そうだ	有意水準 5%で有意
**	少ない	多い	有意水準 1%で高度に有意
***	確実に少ない	確実に多い	有意水準 0.1%で高度に有意

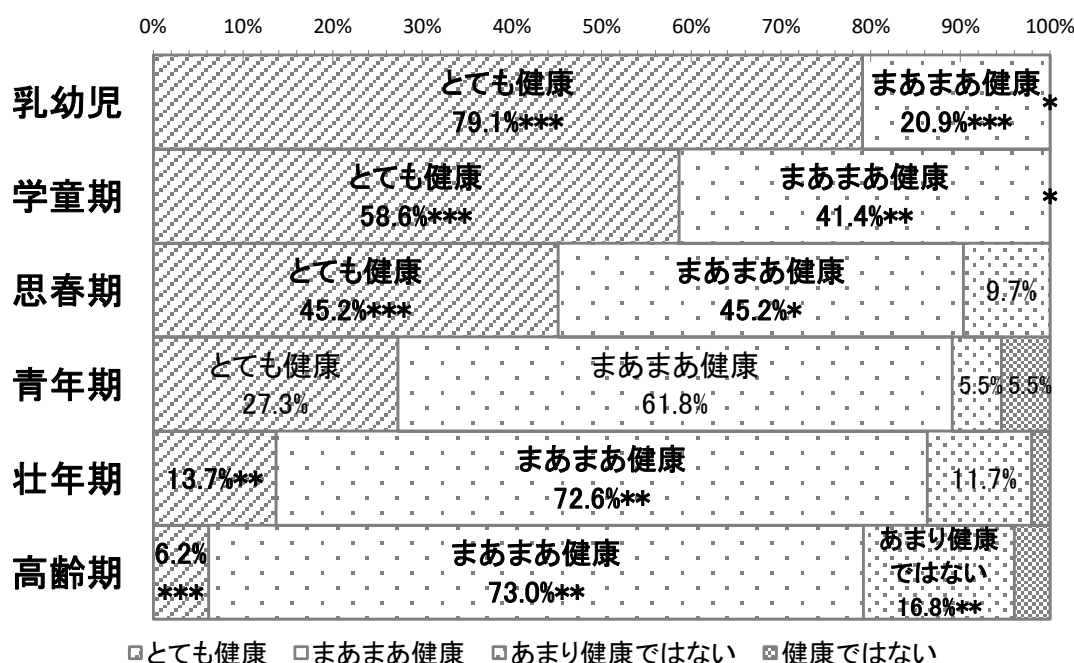
2 アンケート調査結果の概要

ここでは特徴的な調査結果について示します。

1) 全体の傾向

【健康状態】年齢が上がるほど「とても健康」が少ない

健康状態は、乳幼児期が最も健康で、年齢が上がるほど「とても健康」が少なくなり、「あまり健康ではない」、「健康ではない」が増加する傾向を示しています。



□とても健康 □まあまあ健康 □あまり健康ではない □健康ではない

【健康法】「朝ごはんを毎日食べる」が多い

健康法の順位を比較すると、乳幼児期、学童期、壮年期、高齢期では「朝ごはんを毎日食べる」が1位になっていますが、思春期、青年期では「きちんと水分をとる」が1位になっています。

順位	乳幼児期	順位	学童期	順位	思春期	順位	青年期	順位	壮年期	順位	高齢期
1	朝ごはんを毎日食べる 93.0%	1	朝ごはんを毎日食べる 86.2%	1	きちんと水分をとる 61.3%	1	きちんと水分をとる 69.1%	1	朝ごはんを毎日食べる 65.8%	1	朝ごはんを毎日食べる 89.6%
2	歯を大切にする 81.4%	2	残さず食べるよう気をつける 62.1%	2	朝ごはんを毎日食べる 58.1%	2	朝ごはんを毎日食べる 61.8%	2	きちんと水分をとる 61.2%	2	きちんと水分をとる 82.6%
3	よく眠る 79.1%	3	汗をかいたらきちんと水分をとる 62.1%	3	残さず食べるよう気をつける 58.1%	3	睡眠を十分とる 47.3%	3	健康診断を定期的に受診する 56.6%	3	健康診断を定期的に受診する 64.8%
4	外で遊ばせたり体を動かしたりする 74.4%	4	友だちと会う・遊ぶ 58.6%	4	歯を大切にする 48.4%	4	太りすぎない 43.6%	4	太りすぎない 51.5%	4	できるだけ歩いたり体を動かしたりする 63.0%
5	友だち遊び 60.5%	5	歯を大切にする 48.3%	5	運動やスポーツをする 41.9%	5	残さず食べるよう気をつける 41.8%	5	食べすぎないよう気をつける 49.0%	5	睡眠を十分とる 61.7%

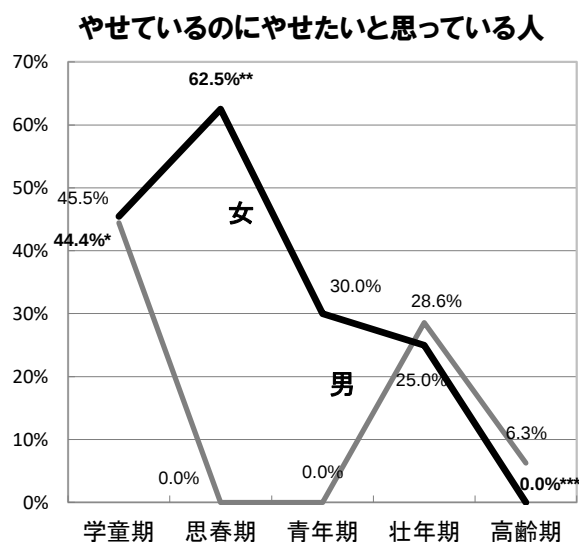
【メタボ】学童期・思春期で「聞いたことがない」が多い

メタボについて他市町・前々回・前回と比べると、学童期では、「聞いたことがない」が多く、「よく知っている」が少ない。思春期では、「聞いたことがない」が多くなっていました。



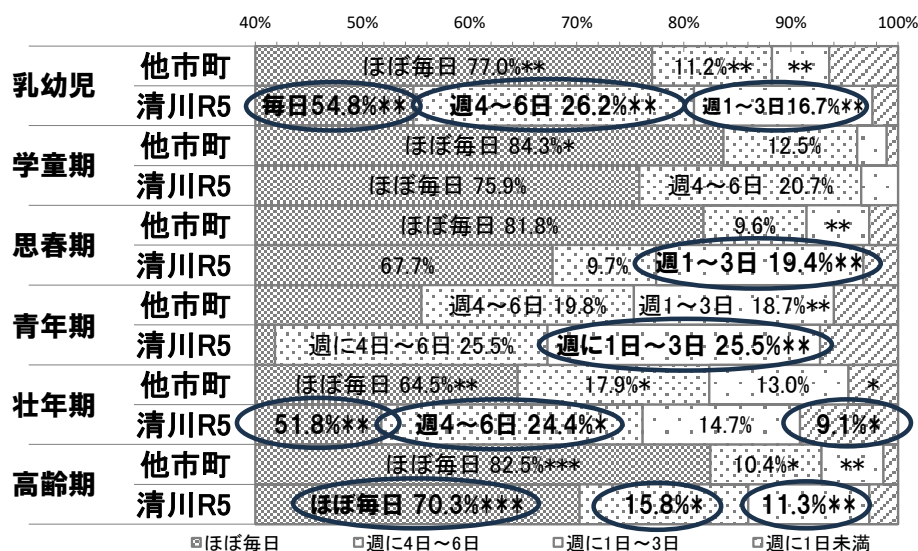
【体型希望】女性は、やせているのにやせたいと思っている人が多い

体型希望を BMI と比較してみると、現在やせているのに、更にやせたい人は男性では学童期で特に多く、女性では思春期で特に多くなっています。若い女性のやせ傾向は特に神奈川県において顕著といわれますが、広い年代に広がっていることがうかがえます。



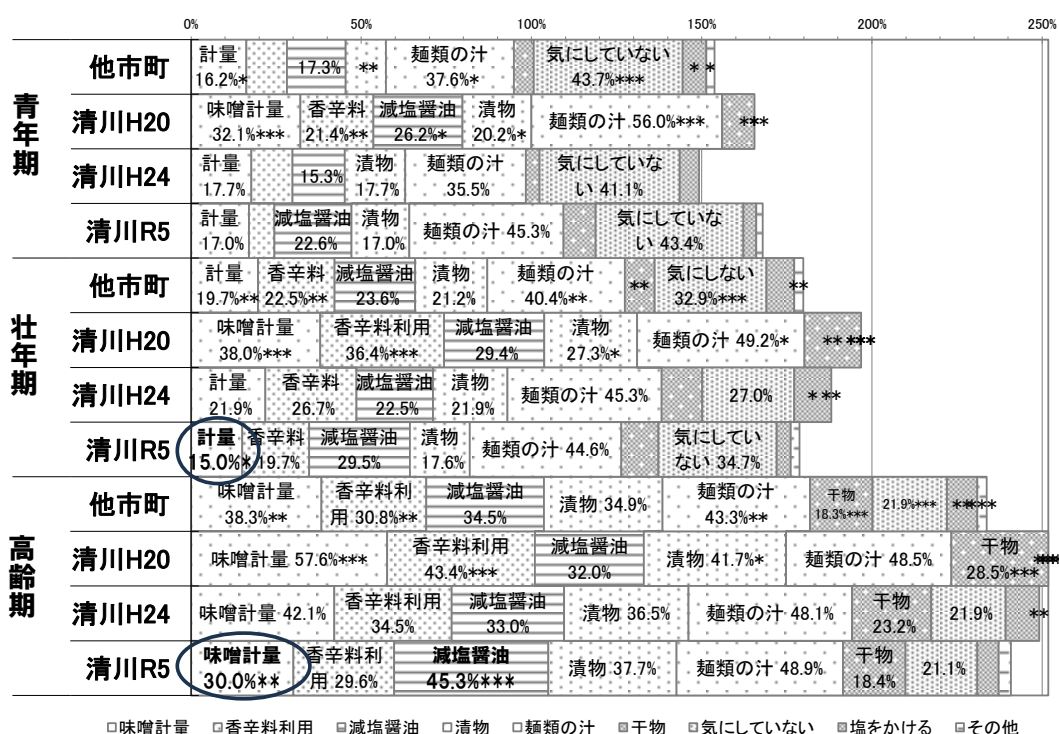
【主食・主菜・副菜 1 日 2 回以上】他市町に比べ、全体的に少ない

主食・主菜・副菜 1 日 2 回以上について、同様設問のある逗子 R4、松田町 R4 と比べると、乳幼児期では、「週に 4 日～6 日」、「週に 1 日～3 日」が多く、「ほぼ毎日」が少ない。思春期では、「週に 1 日～3 日」が多い。壮年期では、「週に 4 日～6 日」、「週に 1 日未満」が多く、「ほぼ毎日」が少ない。高齢期では、「週に 4 日～6 日」、「週に 1 日～3 日」が多く、「ほぼ毎日」が少ない。



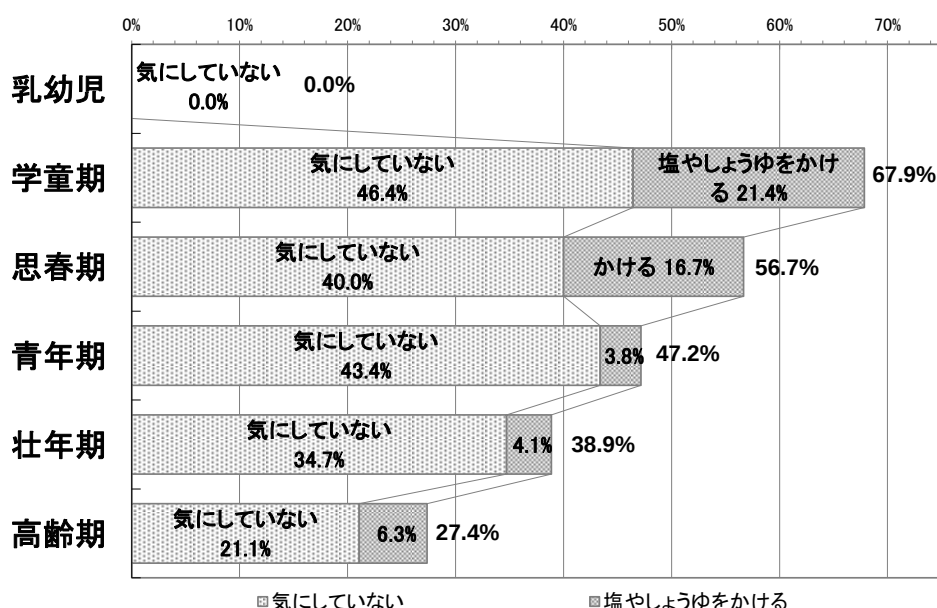
【塩分】味噌や醤油の計量が減った

塩分について他市町・前々回・前回と比べると、壮年期、高齢期で「味噌や醤油は計量して薄味にしている」が少なくなっていました。



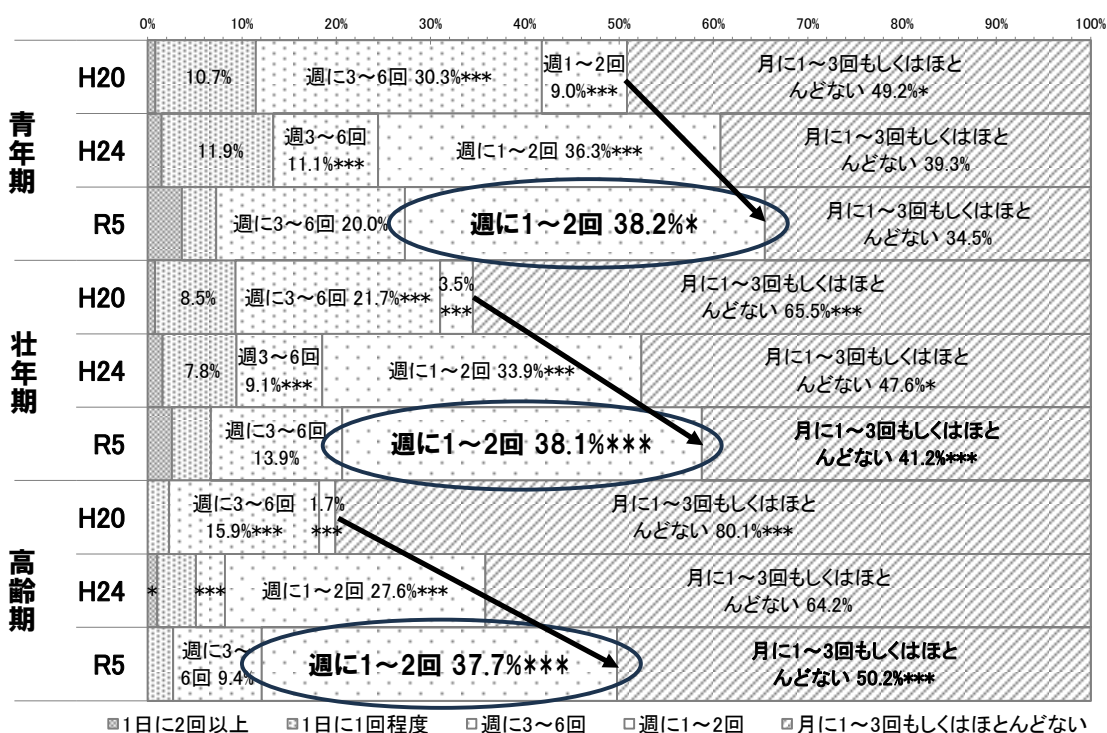
【塩分】塩分を気にしていない、または塩やしょうゆをかける人が多い

塩分を気にしていない、または塩やしょうゆをかける人の割合は、学童期から青年期で約半数に達します。高齢期でさえ約3割が無関心という結果になっています。



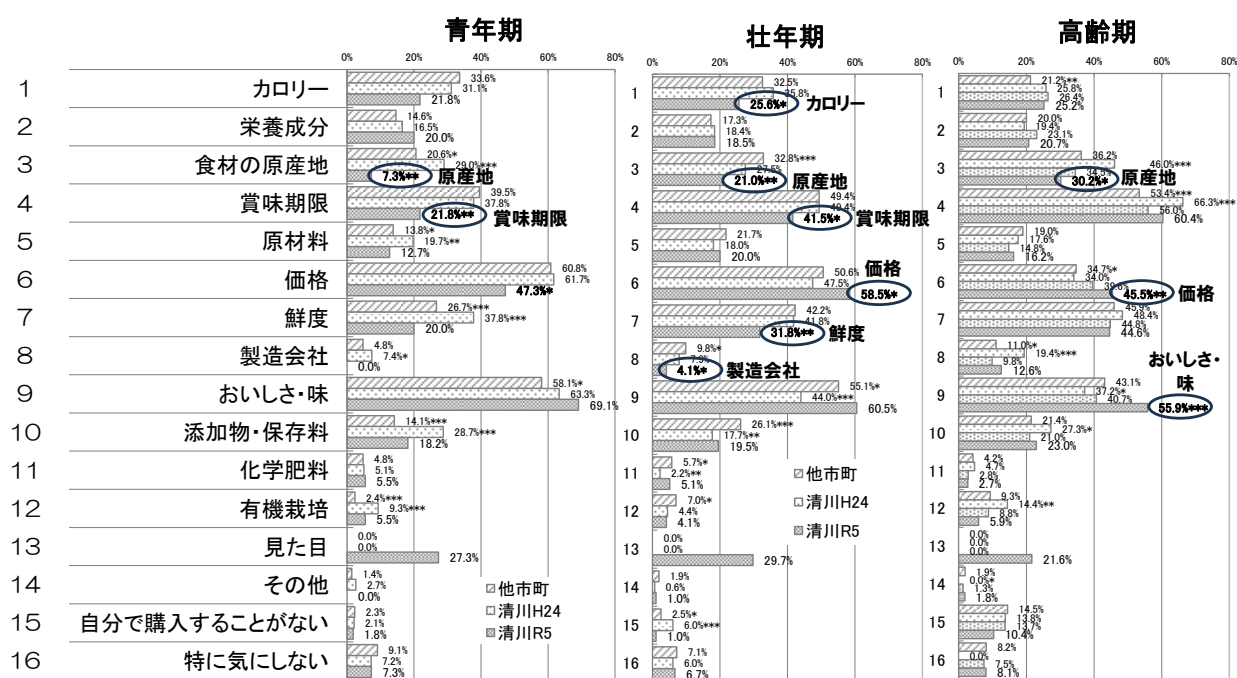
【弁当・惣菜利用頻度】弁当・惣菜の利用が増えている

外食・弁当・おかずの頻度について前々回、前回と比べると、青年期では「週に1～2回」が多い。壮年期では、「週に1～2回」が多く、「月に1～3回もしくはほとんどない」が少ない。高齢期では、「週に1～2回」が多く、「月に1～3回もしくはほとんどない」が少ないなど、いずれの年代でも利用頻度が上がっていました。



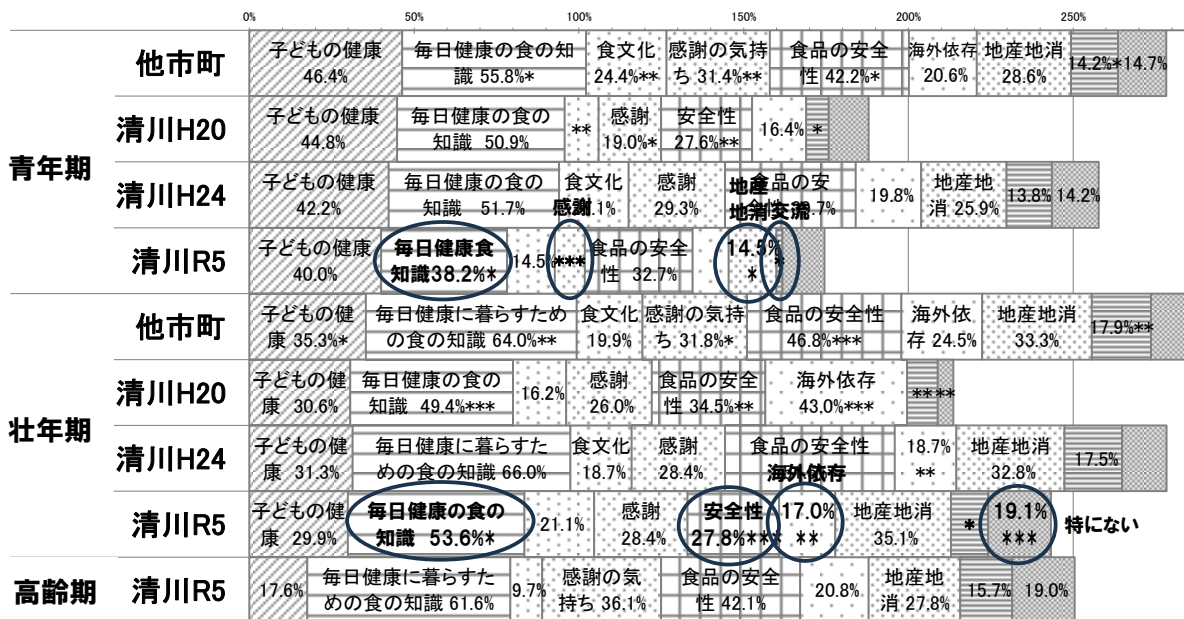
【食品購入の際の配慮】青年期、壮年期、高齢期で配慮が低下

食品購入の際の配慮について他市町・前々回・前回とくらべると、青年期では、「食材の原産地」、「賞味期限」が少ない。壮年期では、「価格」が多く、「カロリー」、「食材の原産地」、「賞味期限」、「鮮度」、「製造会社」が少ない。高齢期では、「価格」、「おいしさ・味」が多く、「食材の原産地」が少ない、など全般的に配慮が低くなっていました。



【食育関心】食育への関心が低下

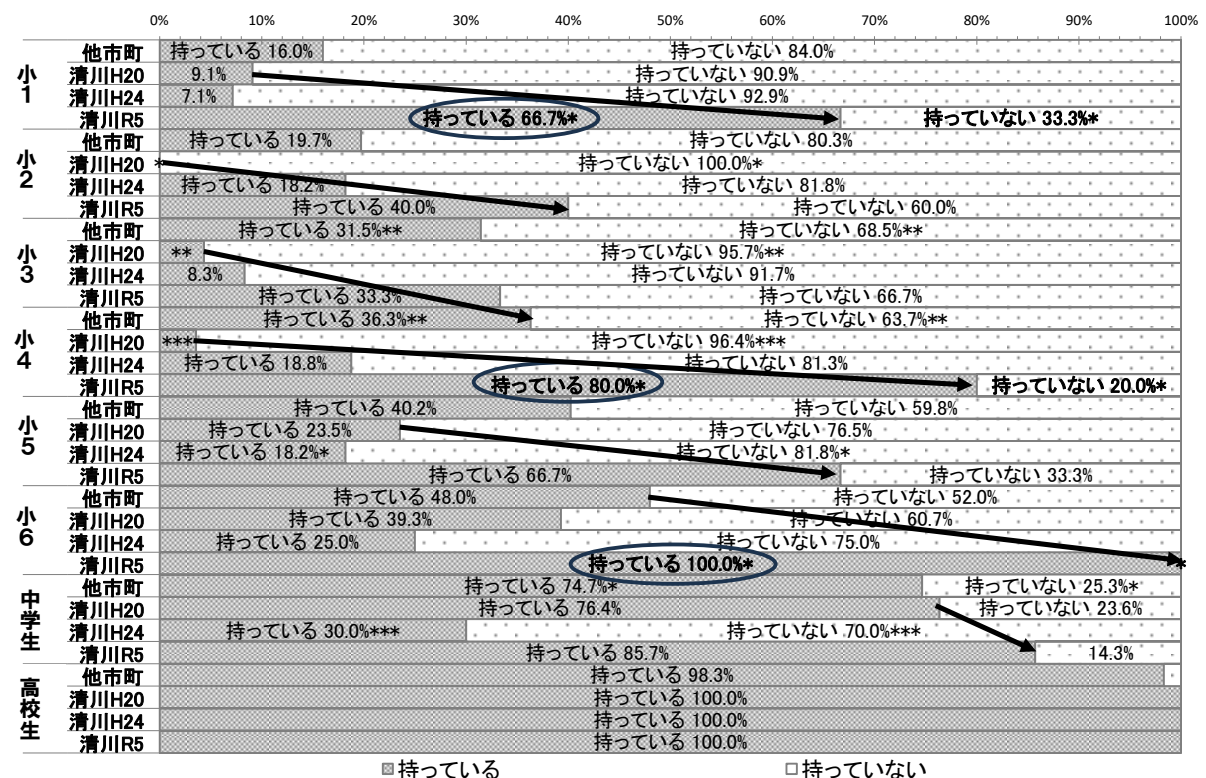
食育についての関心について他市町・前々回・前回とくらべると、青年期では、「毎日健康に暮らすための食の知識」、「食を通じて人や自然への感謝の気持ちを持つ」、「地産地消の取り組み」、「消費者と生産者の間の交流、生産者の顔の見える販売方法」が少ない。壮年期では、「特にない」が多く、「毎日健康に暮らすための食の知識」、「食品の安全性（放射能問題、食品栄養表示など）」、「食料の海外依存や輸入問題（TPP、FTA 問題など）」、「消費者と生産者の間の交流、生産者の顔の見える販売方法」が少ないなど、全般的に、食育についての関心が下がったことがうかがえます。



- 子どもが生き生きと健康に暮らすための食の知識
- 地域の食文化や伝統を守り伝える
- 食品の安全性(放射能問題、食品栄養表示など)
- 地産地消の取り組み
- 特にない
- 毎日健康に暮らすための食の知識
- 食を通じて人や自然への感謝の気持ちを持つ
- 食料の海外依存や輸入問題(TPP、FTA問題など)
- 消費者と生産者の間の交流、生産者の顔の見える販売方法

【携帯、スマホ、タブレット】持っている比率が増加

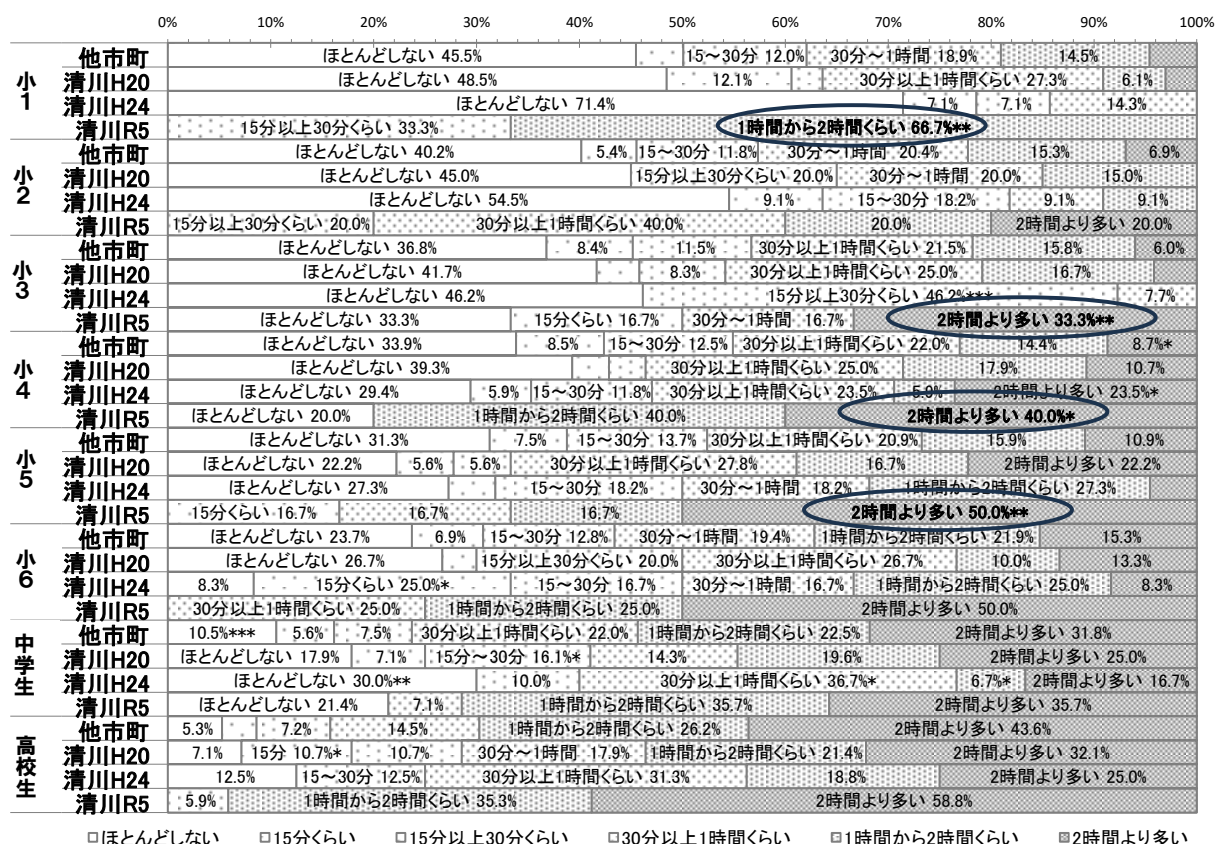
携帯、スマホ、タブレットを持っている比率を他市町、前回、前々回と比べると、小学1年生、4年生、6年生で「持っている」子が多くなっていました。中学生以上は差はみられませんでした。



■持っている □持っていない

【ゲーム・メール・SNS・動画視聴時間】視聴時間が増加

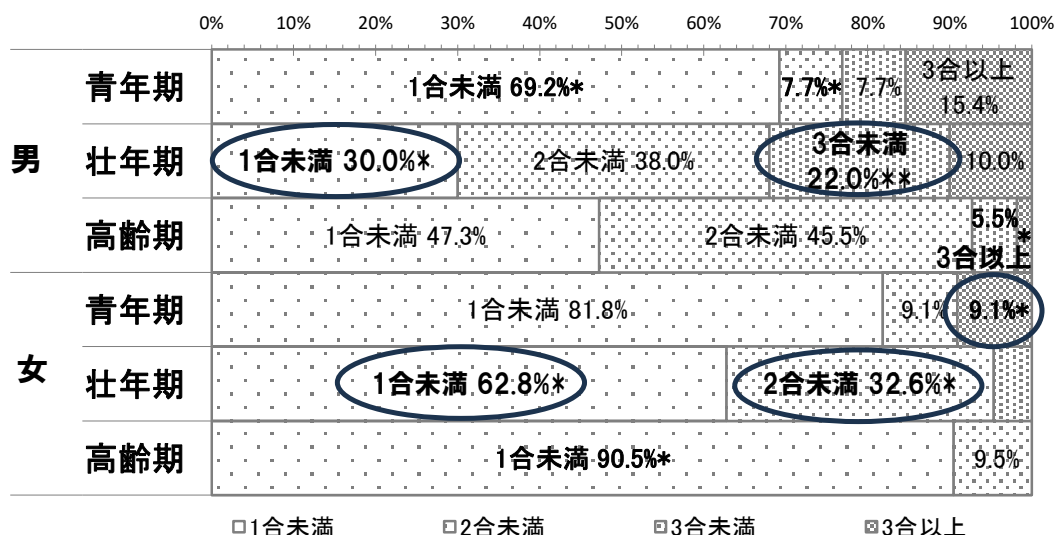
ゲーム・メール・SNS・動画視聴時間について他市町・前々回・前回と比べてみると、小学3年生から5年生で「2時間より多い」人が多くなっています。



【飲酒量】男性では壮年期で「3合未満」が多い

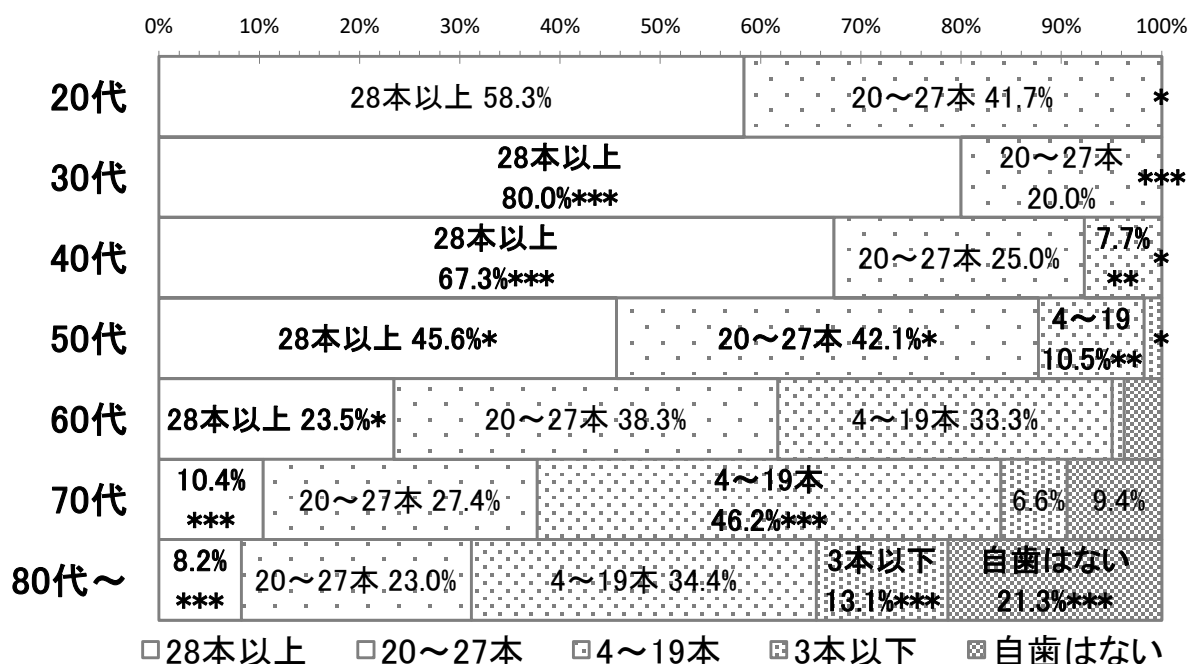
女性では青年期で「3合以上」、壮年期で「2合未満」が多い

飲酒量は、男性では壮年期で「3合未満」が多く、「1合未満」が少ない。女性では青年期で、「3合以上」が多い。壮年期で「1合未満」が少なく、「2合未満」が多くなっていました。



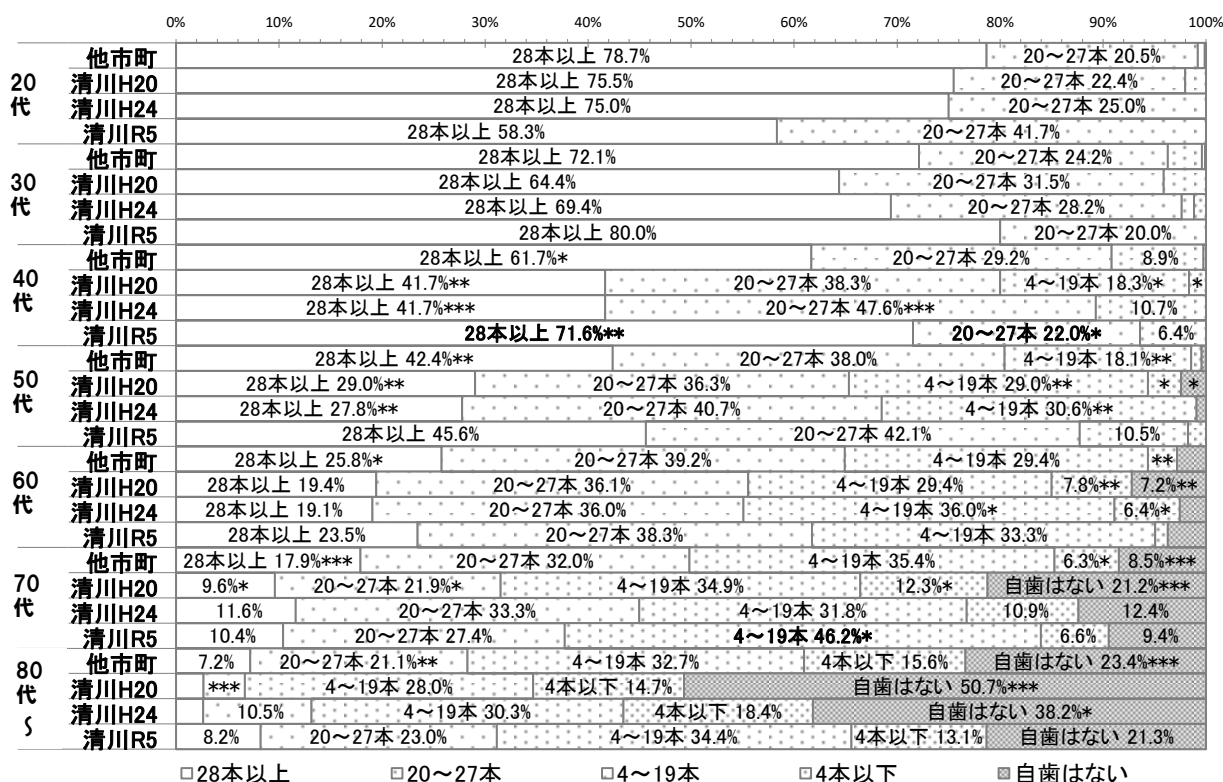
【自歯本数】年齢が上がるほど自歯本数が減少

自歯本数は、年齢が上がるほど 28 本以上が少なくなり、80 歳以上では「自歯はない」人が 21.3%います。年齢が上がるにつれ歯を失っている状況がうかがえます。



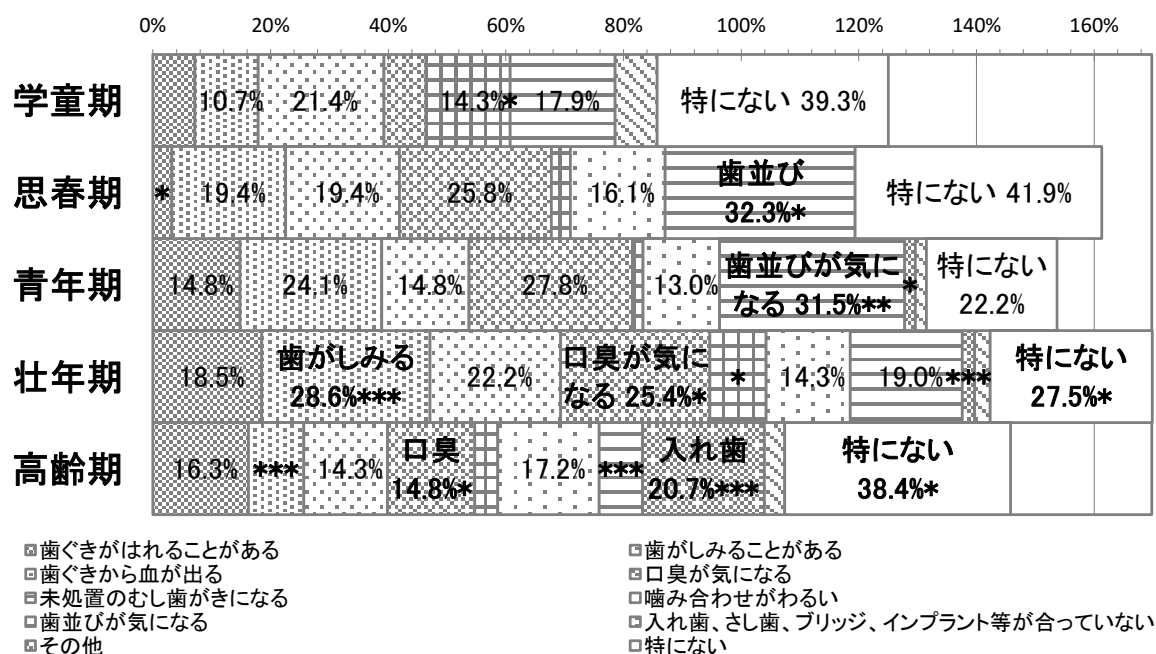
【自歯本数】自歯本数は増加傾向

自歯本数について他市町・前々回・前回と比べると、40 代では、「28 本以上」が多く、「20～27 本」が少ない。70 代では、「4～19 本」が多い程度で、他は特に差はみられません。なお、80 代以上では、「自歯はない」人が H20 50.7%、H24 38.2%、R5 21.3%と改善しています。



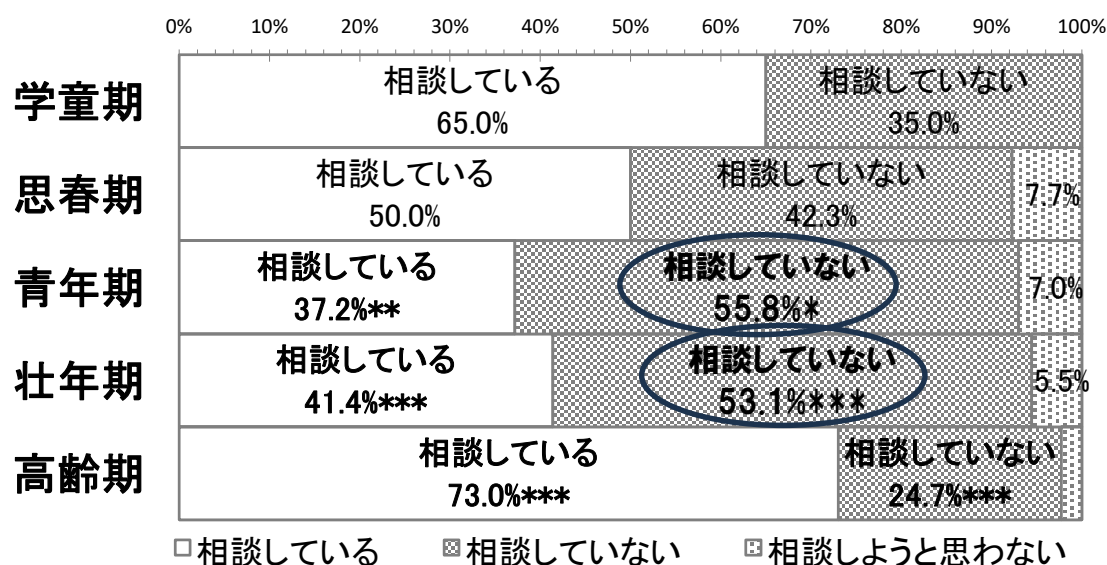
【歯や口の悩み】年代によって悩みが異なる

歯や口の悩みについては、思春期、青年期では、「歯並びが気になる」が多い。壮年期では、「歯がしみることがある」、「口臭が気になる」、「未処置のむし歯がきになる」が多い。高齢期では、「入れ歯、さし歯、ブリッジ、インプラント等が合っていない」が多く、「特にない」も多い、などとなっています。



【歯の相談】青年期、壮年期では「相談していない」人が多い

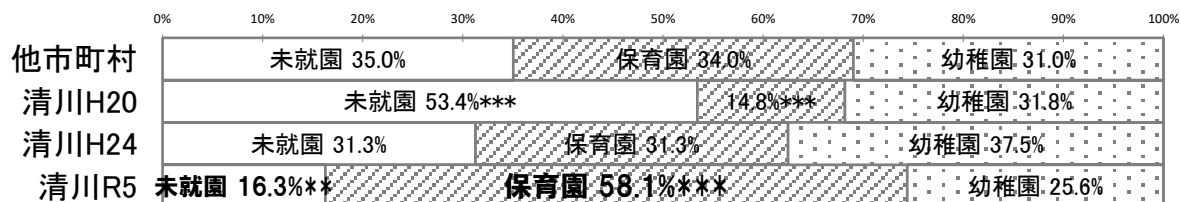
歯の相談をしているかどうかでは、青年期、壮年期で「相談していない」人が多くなっていました。



2) 乳幼児期

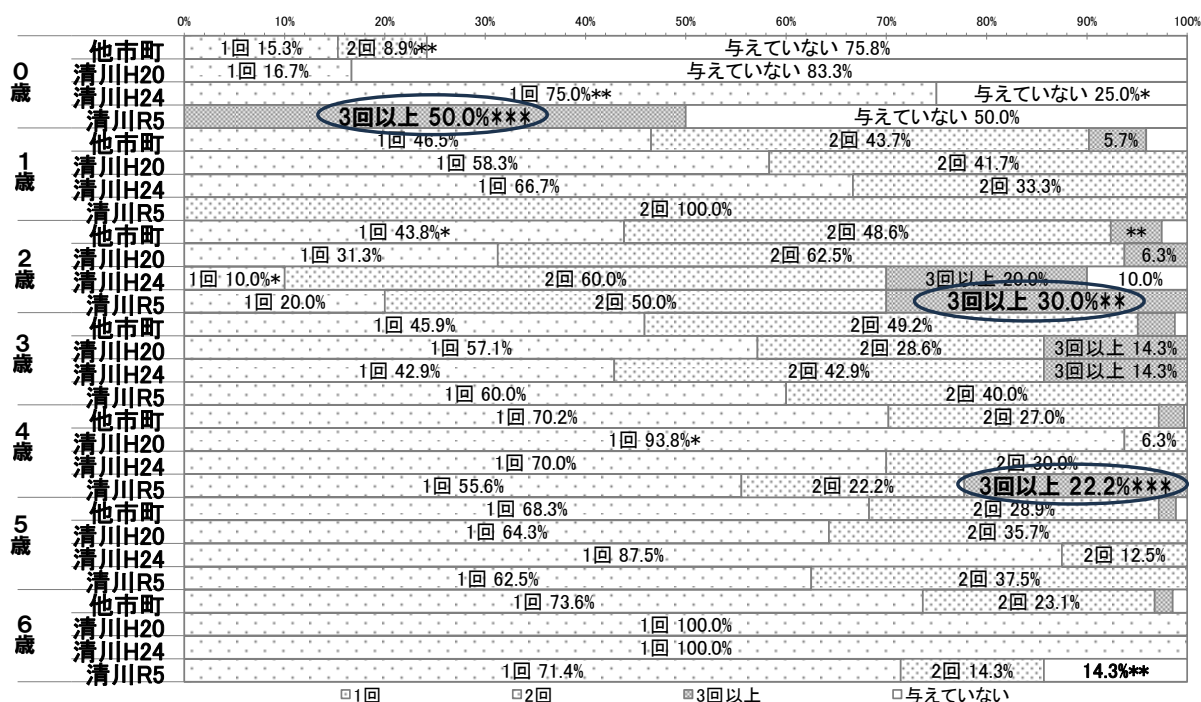
【属性】保育園が多く、未就園が少ない

属性について他市町・前々回・前回と比べると、乳幼児期は、「未就園」が少なく「保育園」が多くなっています。なお、前々回は保育園が少なかったが、前回、今回と多くなっています。



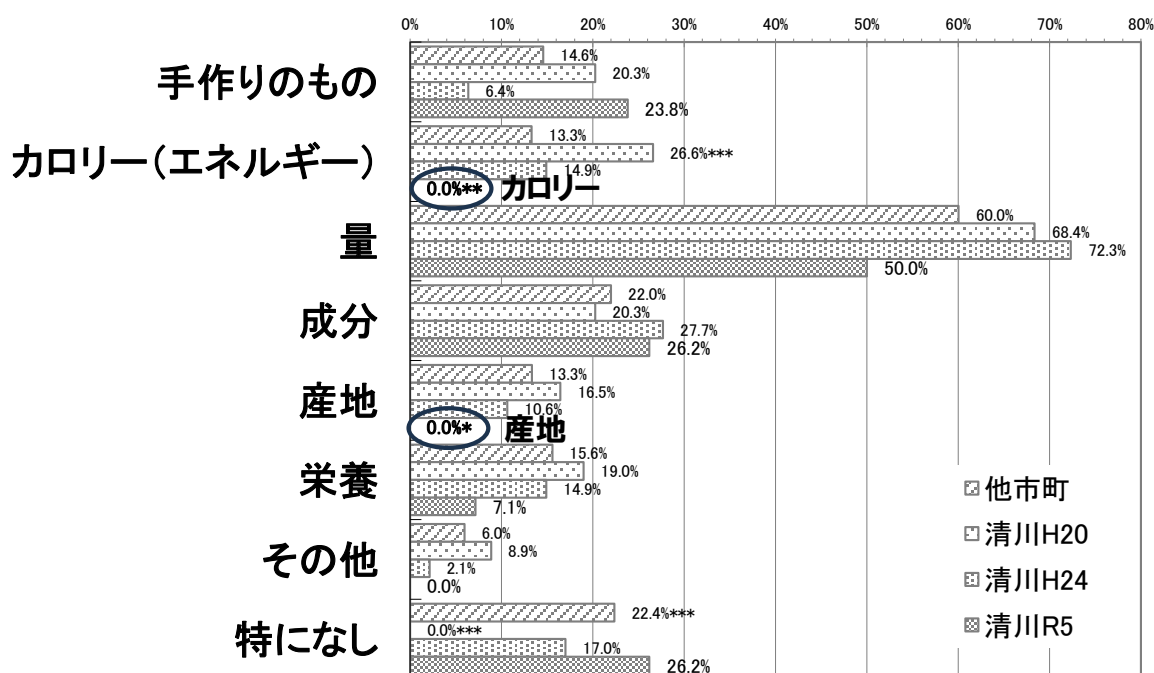
【おやつ回数】おやつの回数が多い

おやつの回数について他市町・前々回・前回と比べると、0歳、2歳、4歳で「3回以上」が多くなっていました。



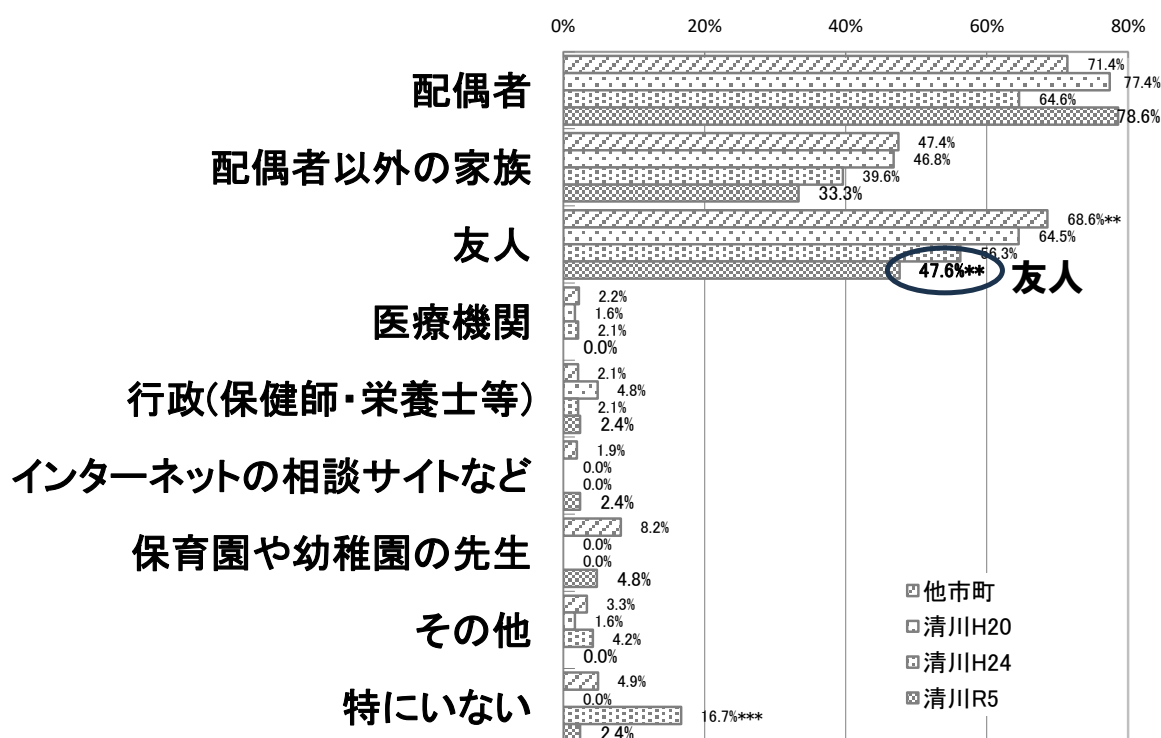
【おやつ配慮】カロリー、産地に配慮していない

おやつ配慮について他市町・前々回・前回と比べると、「カロリー（エネルギー）」、「産地」が少なくなっていました。



【相談相手】「友人」が減った

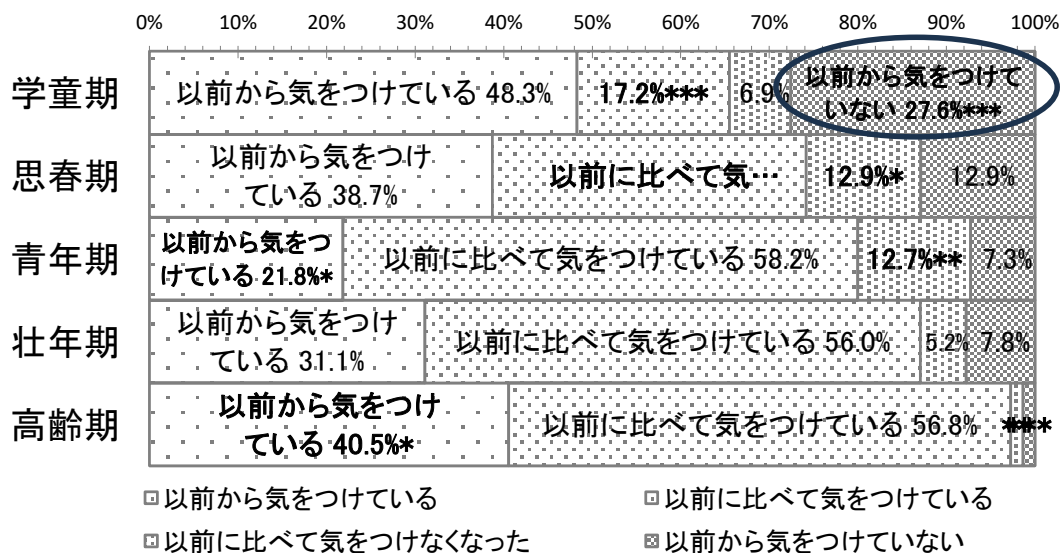
相談相手について他市町・前々回・前回と比べると、乳幼児期では、「友人」が少なくなっていました。



3) 学童期

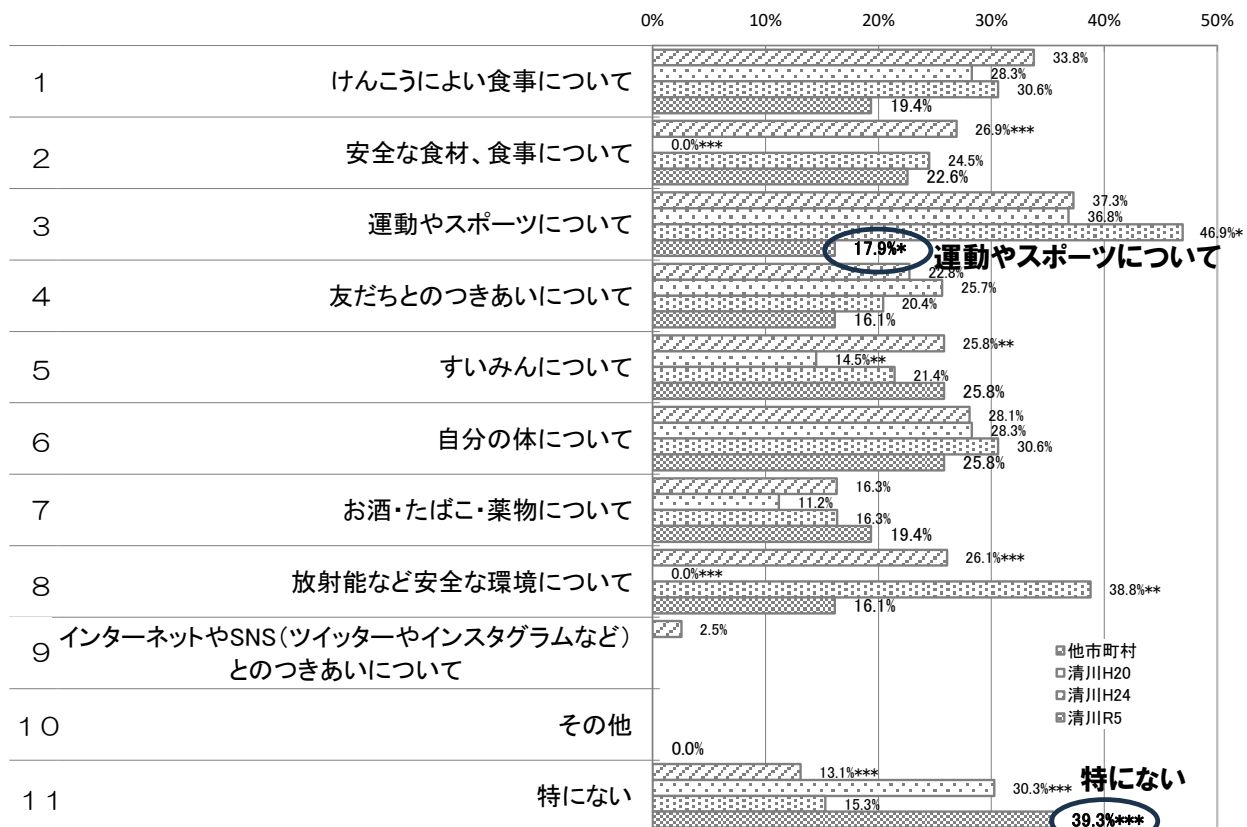
【健康意識の変化】「以前から気をつけていない」人が多い

健康に気をつけているかどうかでは、学童期では、「以前から気をつけていない」が多い。



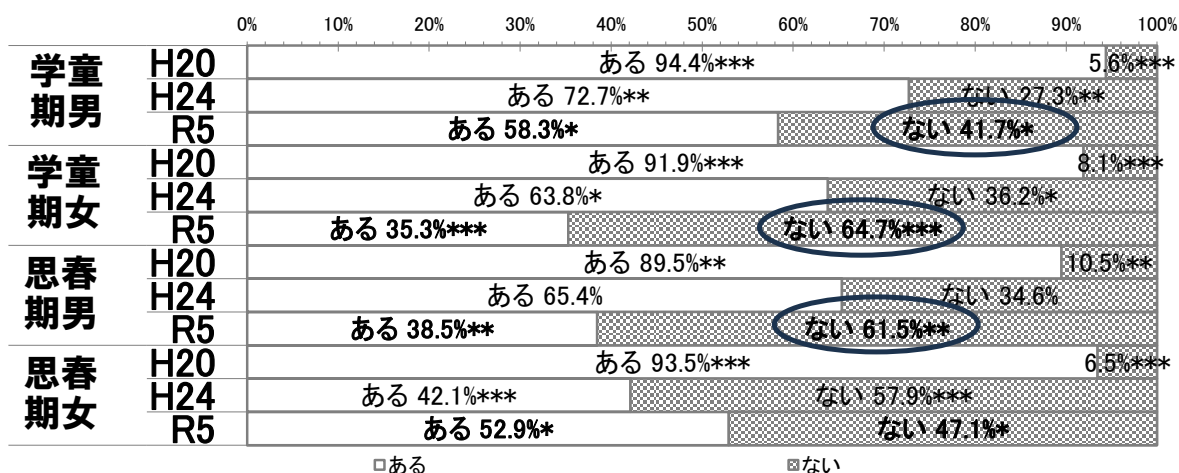
【ほしい健康情報】健康意欲が低くなっている

ほしい健康情報について他市町・前々回・前回と比べると、学童期では、「特にない」が多く、「運動やスポーツについて」が少なくなっており、健康意識が下がっていることがうかがえます。



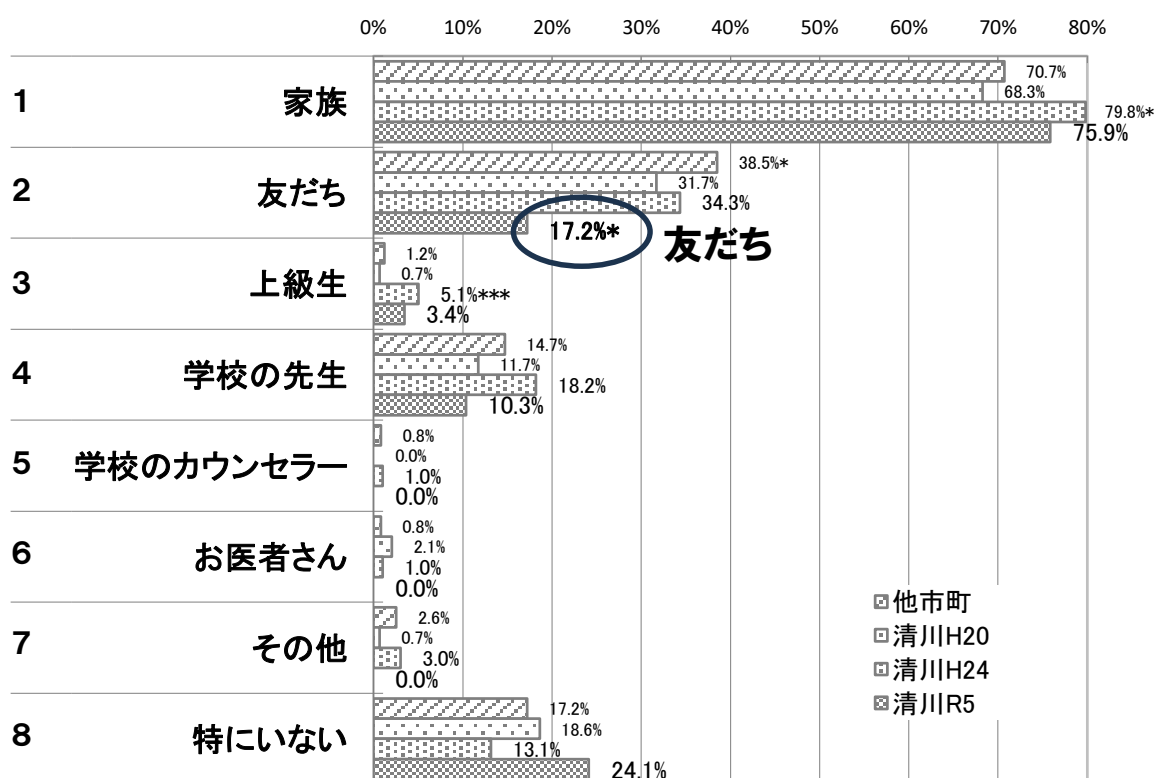
【農業体験】農業体験がない子が増えている

農業体験については、学童期と思春期の男女別で前々回、前回と比較すると、「ない」が多くなっていました。



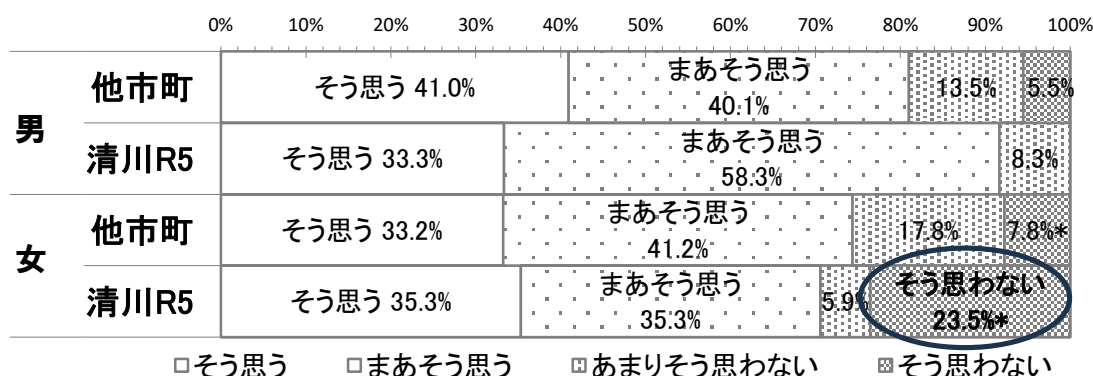
【相談相手】「友だち」が減っている

相談相手について他市町・前々回・前回と比べると、「友だち」が少なくなっていました。



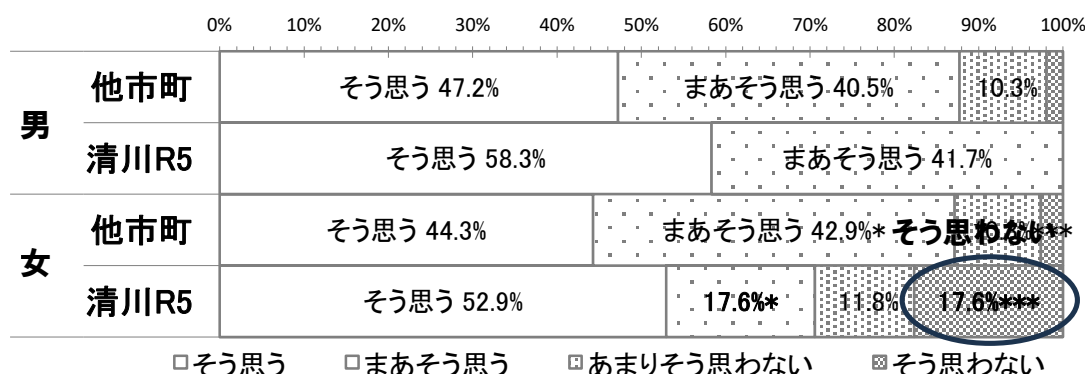
【自分が好きか(自己肯定感)】女子で「そう思わない」子が多い

自分が好きか(自己肯定感)について性別に他市町と比べてみると、学童期女子では、「そう思わない」が多くなっていました。



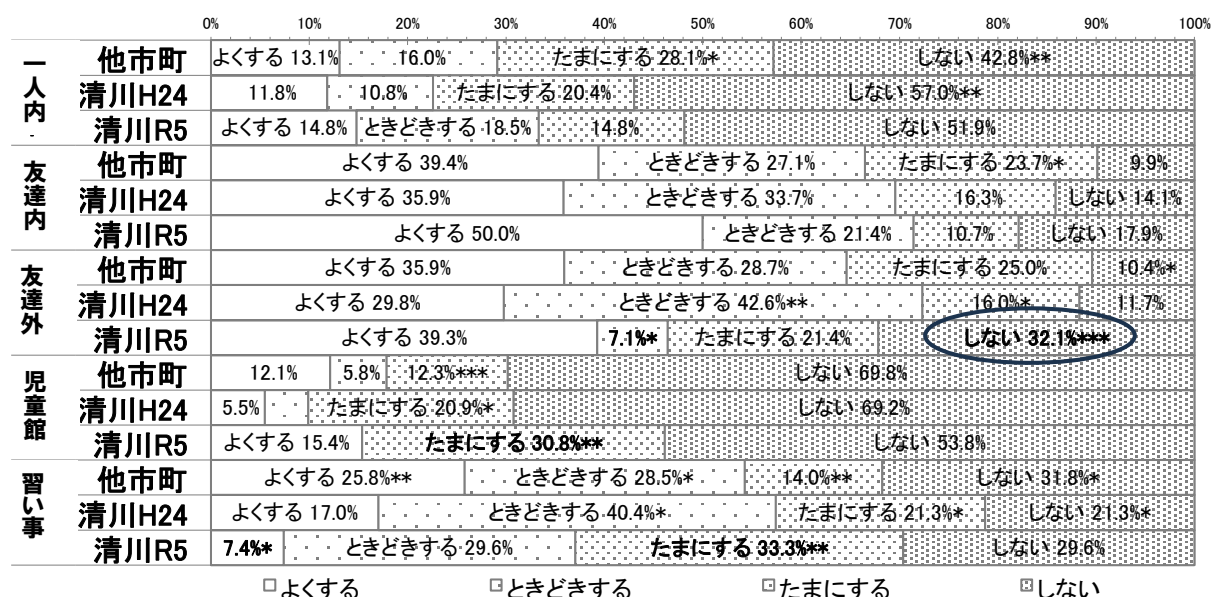
【自分は大切にされているか】女子で「そう思わない」子が多い

自分は大切にされているかについて性別に他市町と比べてみると、学童期女子では、「そう思わない」が多く、「まあそう思う」が少なくなっていました。



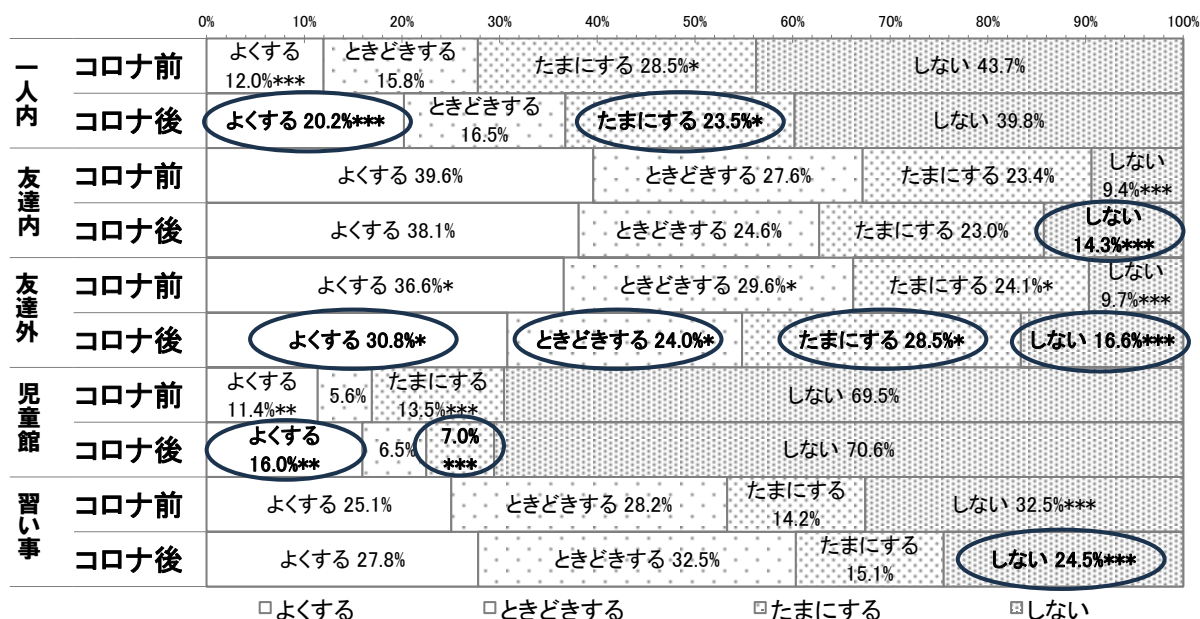
【放課後の過ごし方】友だちと外で遊ばない子が増えた

放課後の過ごし方について他市町・前々回・前回と比べると、「友だち・兄弟などと外で遊ぶ」では、「しない」が多く、「ときどきする」が少ない。



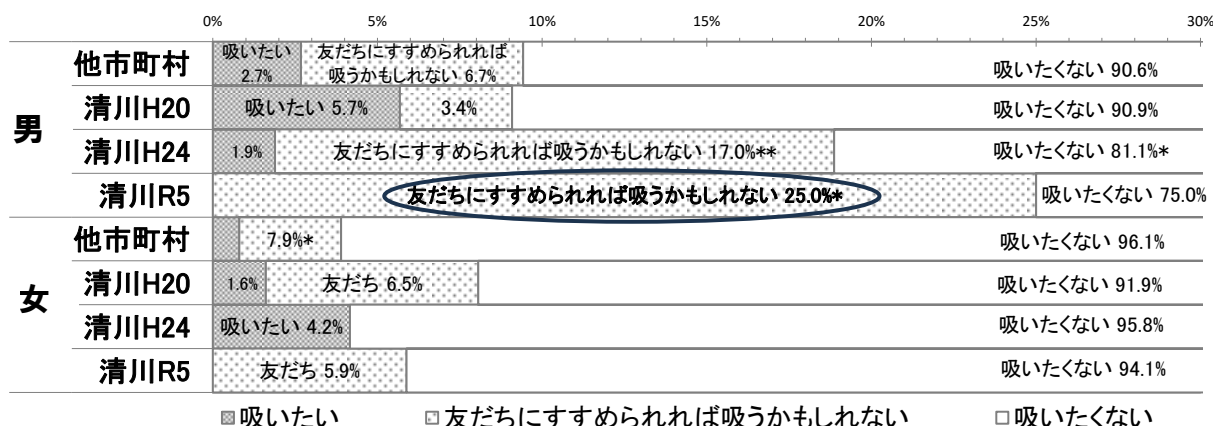
【放課後の過ごし方】コロナ前後で行動が変化

放課後の過ごし方についてコロナ前とコロナ後で比べてみると、「ひとりで室内ですごす」は、「よくする」が多く、「たまにする」が少ない。「友だち・兄弟などと室内で遊ぶ」は、「しない」が多い。「友だち・兄弟などと外で遊ぶ」は、「たまにする」、「しない」が多く、「よくする」、「ときどきする」が少ない。「児童クラブ・子ども教室」は、「よくする」が多く、「たまにする」が少ない。「習い事・塾」では、「しない」が少なくなっています。



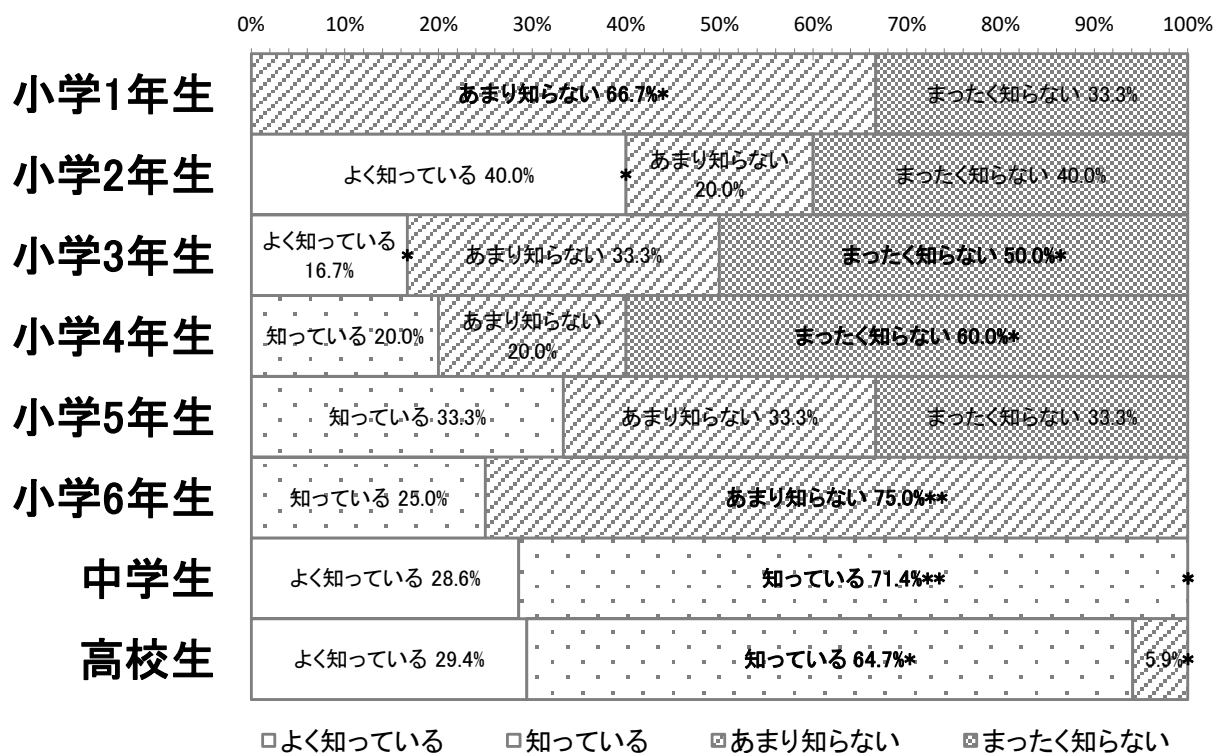
【喫煙意欲】男子で「友だちにすすめられれば吸うかもしれない」子が多い

喫煙意欲について他市町・前々回・前回と比べると、学童期男子では、「友だちにすすめられれば吸うかもしれない」が多くなっていました。



【薬物知識】知らない子が多い

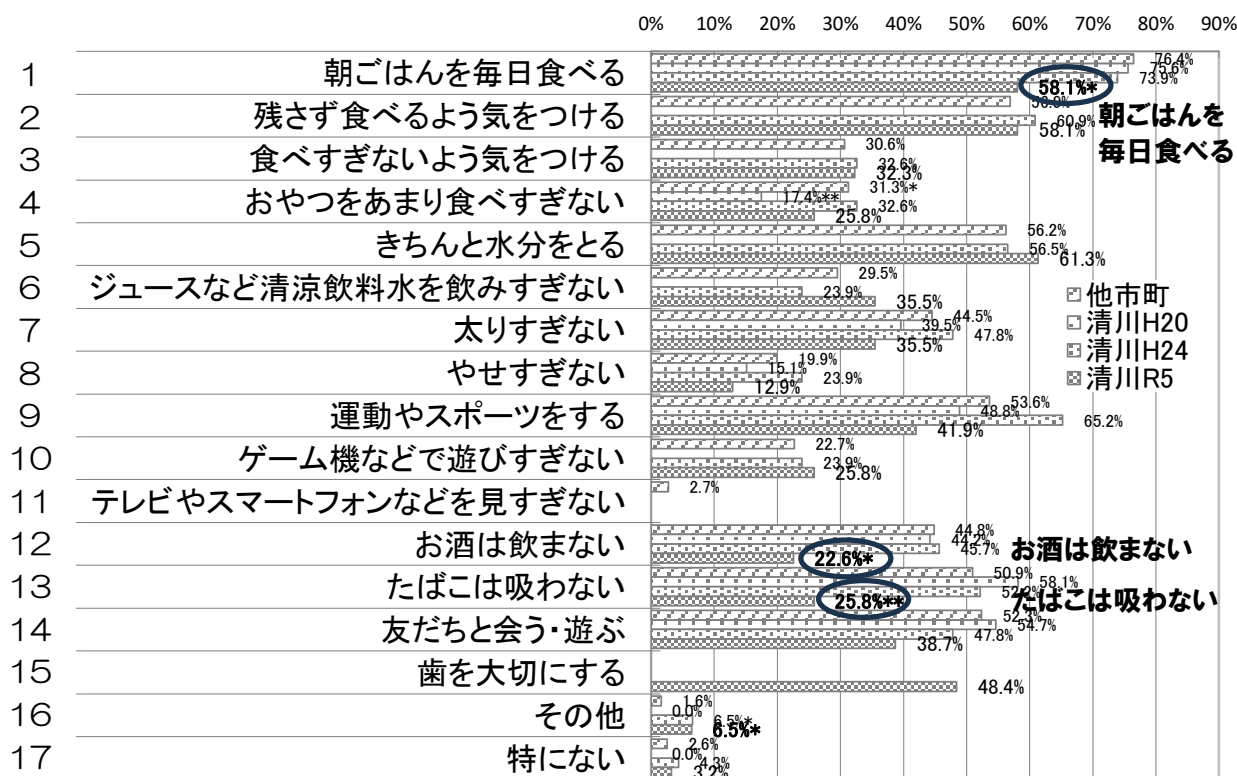
薬物知識については、中学生、高校生では「知っている」人が多くなっていますが、小学生では「あまり知らない」、「まったく知らない」子が多くなっています。



4) 思春期

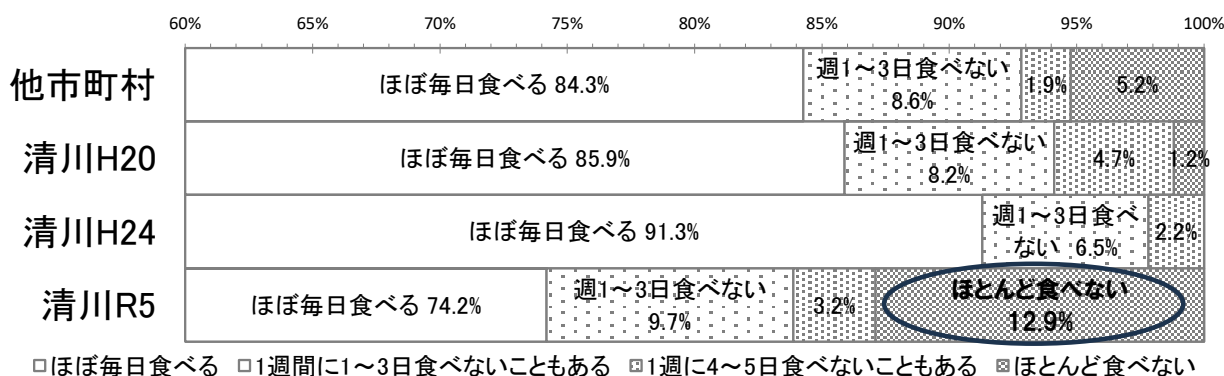
【健康法】健康法が減少している

健康法について他市町・前々回・前回と比べると、「朝ごはんを毎日食べる」、「お酒は飲まない」、「たばこは吸わない」が少なくなっていました。



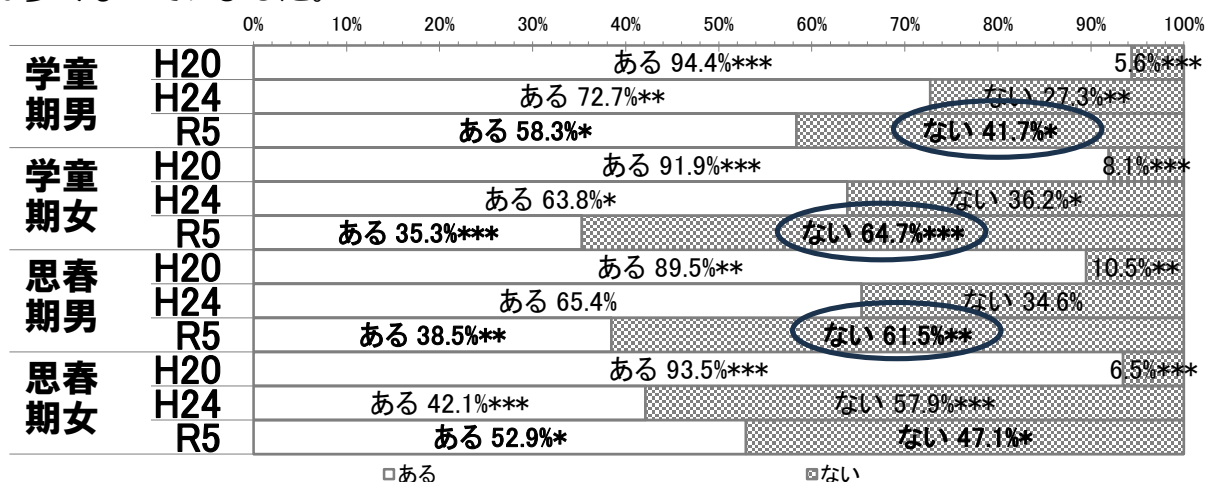
【朝食】「ほとんど食べない」人が増えた

朝食について他市町・前々回・前回と比べると、思春期で「ほとんど食べない」人が多くなっています。



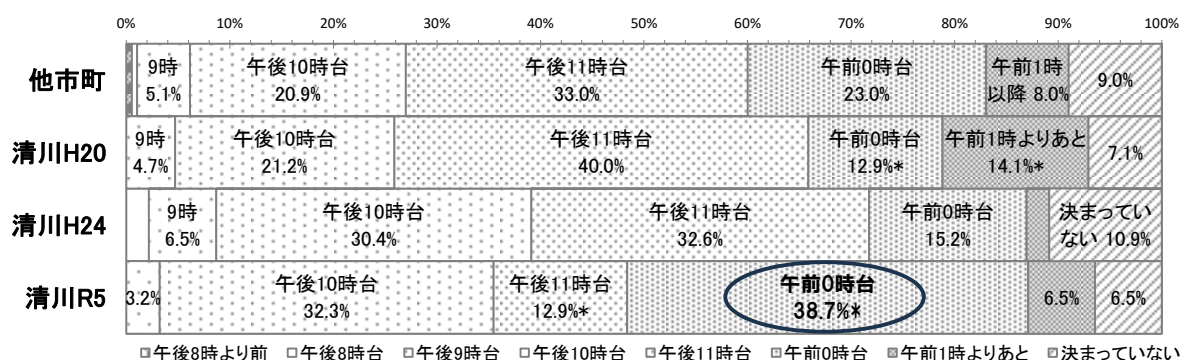
【農業体験】農業体験がない子が増えている

農業体験については、学童期と思春期の男女別で前々回、前回と比較すると、「ない」が多くなっていました。



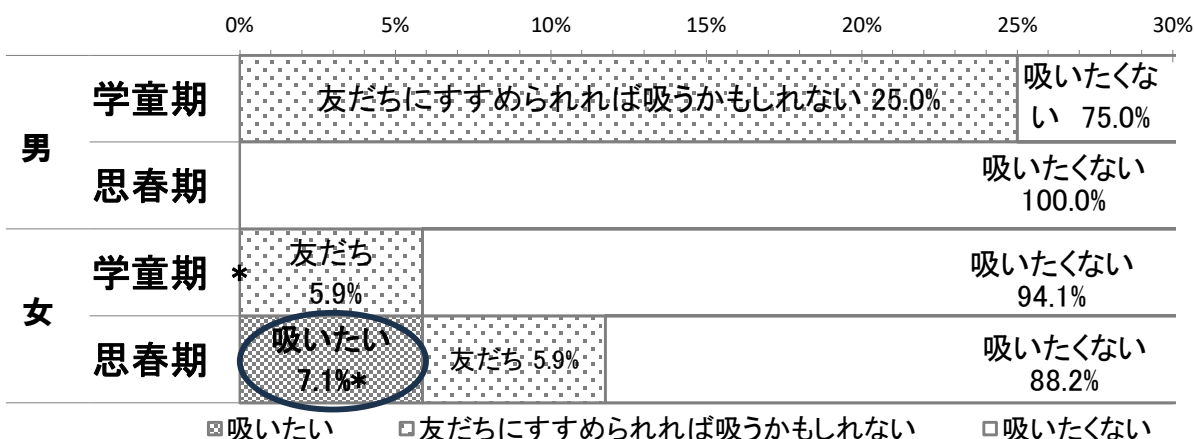
【就寝時間】「午前0時台」が増加している

就寝時間について他市町・前々回・前回と比べると、思春期では、「午前0時台」が多く、「午後11時台」が少なくなっています。



【喫煙意欲】女子で「吸いたい」子が多くなっている

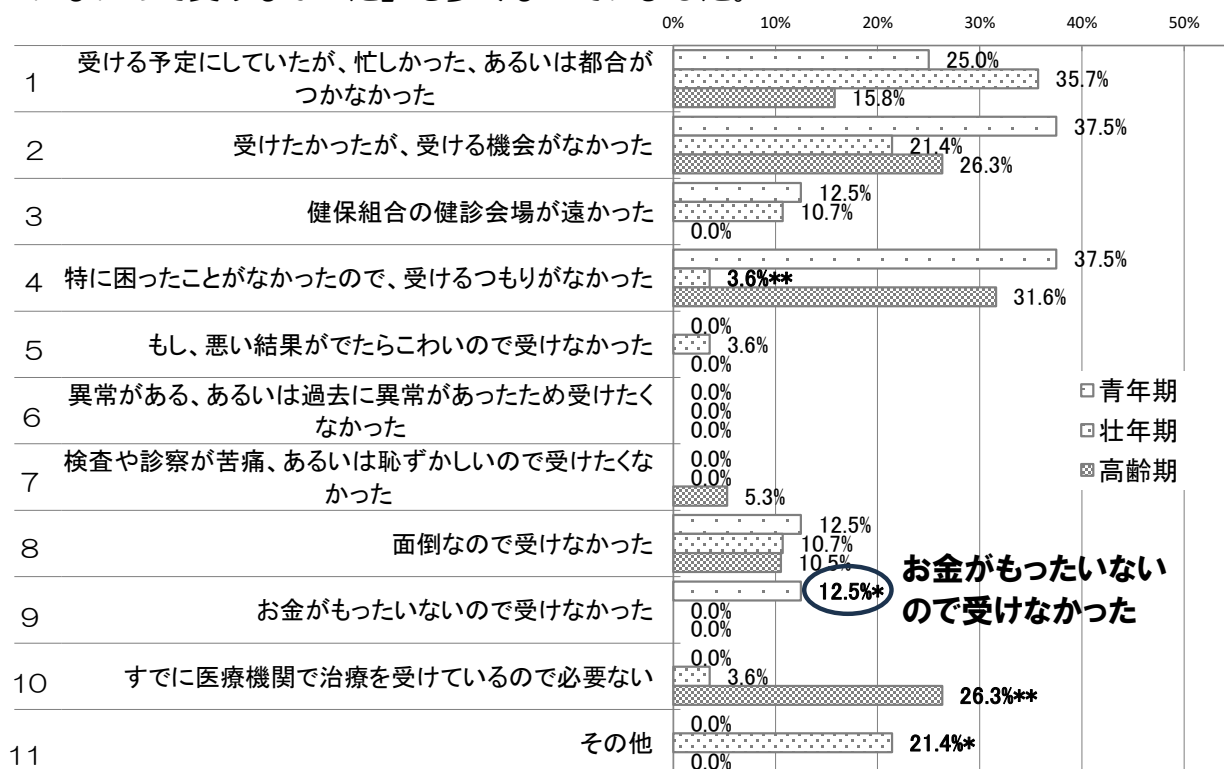
学童期と思春期に対する「将来たばこを吸いたいのか」という質問については、女子では思春期で「吸いたい」人が多くなっていました。



5) 青年期

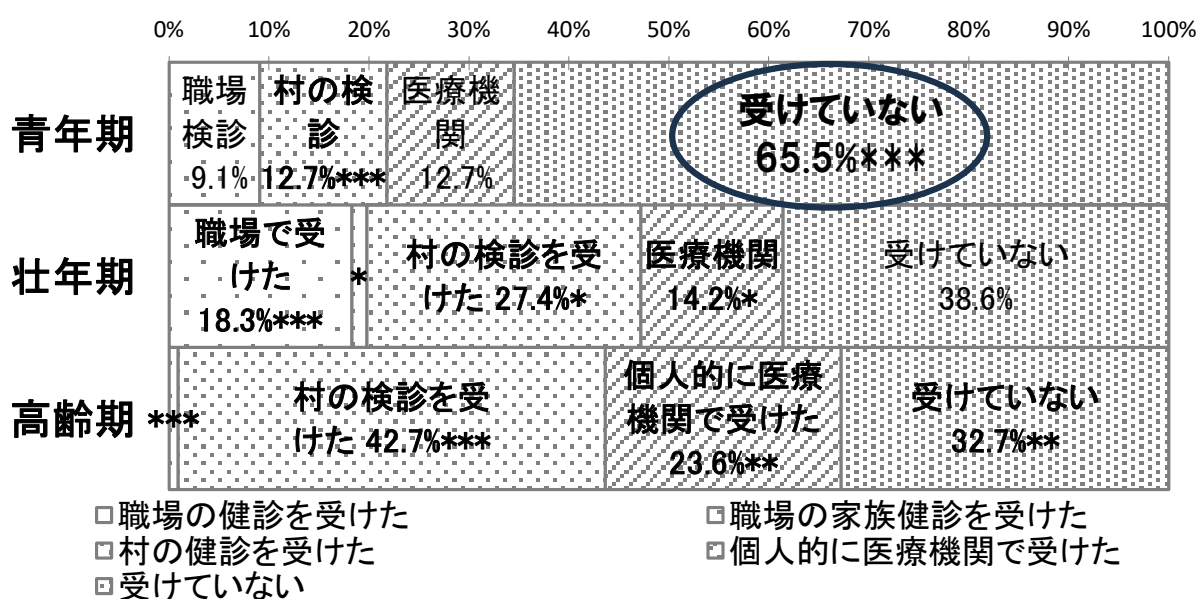
【健診不受診理由】青年期では「お金がもったいない」が多い

健診を受けなかった理由としては、全年代で「受ける予定にしていたが、忙しかった、あるいは都合がつかなかった」が多くなっていますが、青年期では、「お金がもったいないので受けなかった」も多くなっていました。



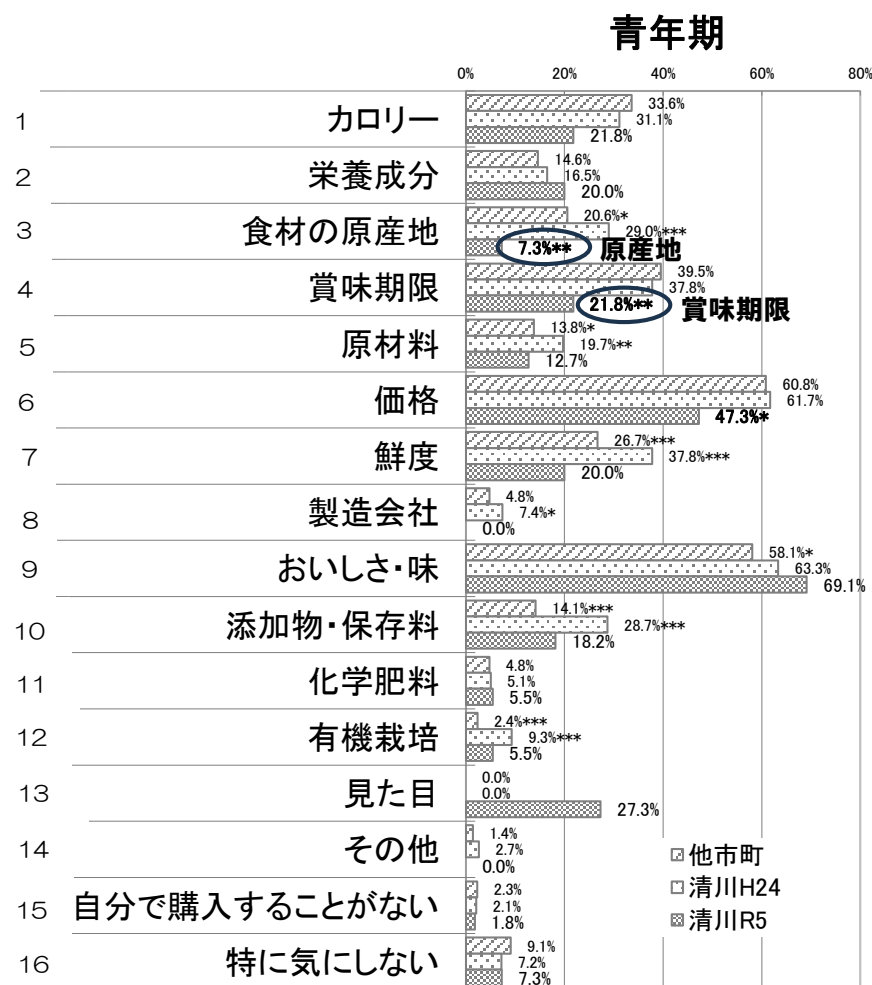
【がん検診受診状況】青年期では「受けていない」人が多い

がん検診の受診状況では、青年期で「受けていない」が多くなっています。



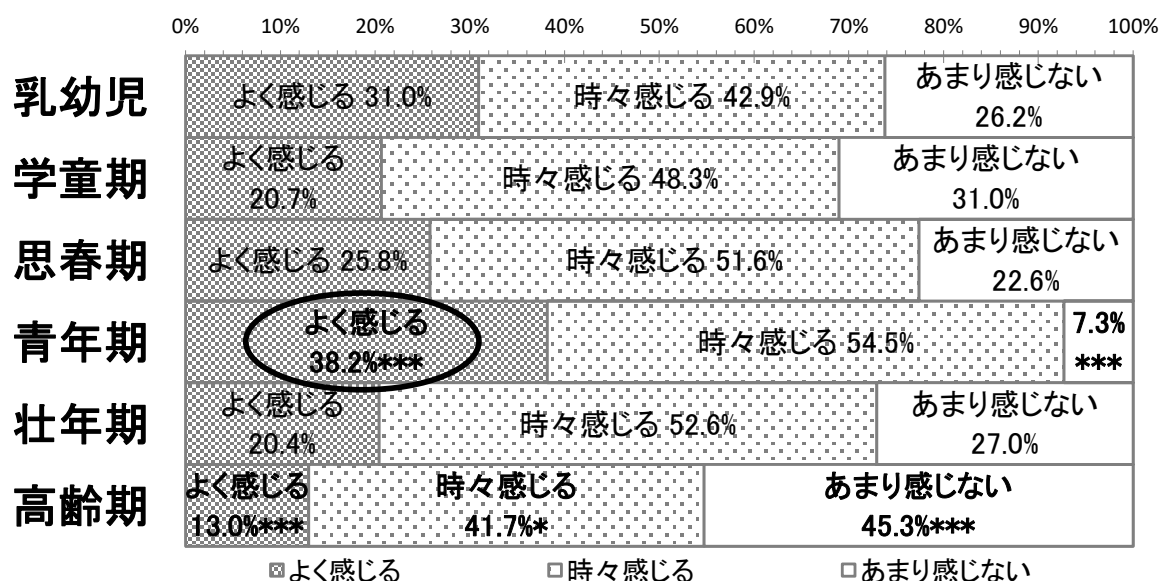
【食品購入の際の配慮】青年期で配慮が低下している

食品購入の際の配慮について他市町・前々回・前回とくらべると、青年期では、「食材の原産地」、「賞味期限」が少なくなっていました。



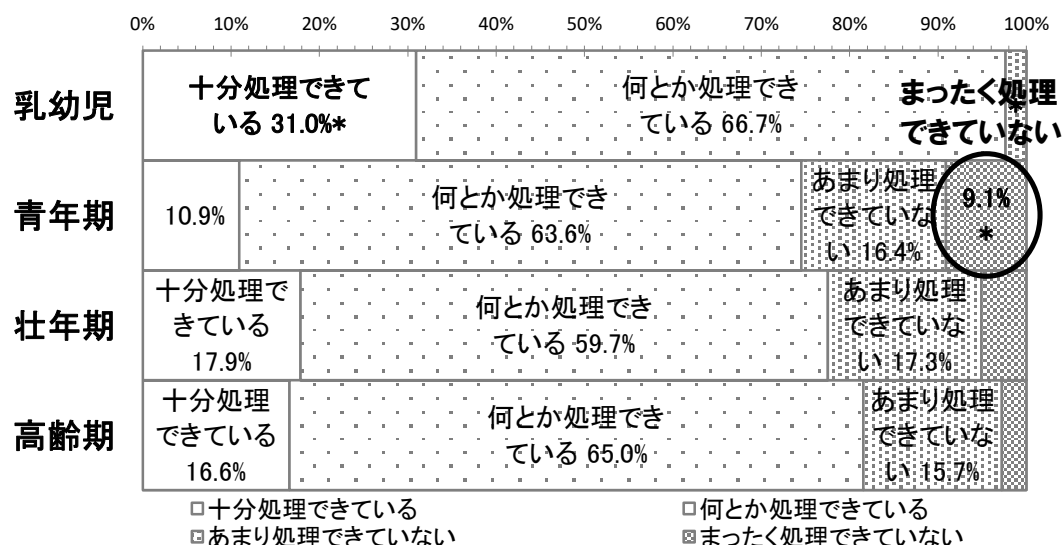
【ストレス有無】青年期で「よく感じる」が多い

ストレスの有無では、よく感じる人は青年期で多くなっていました。



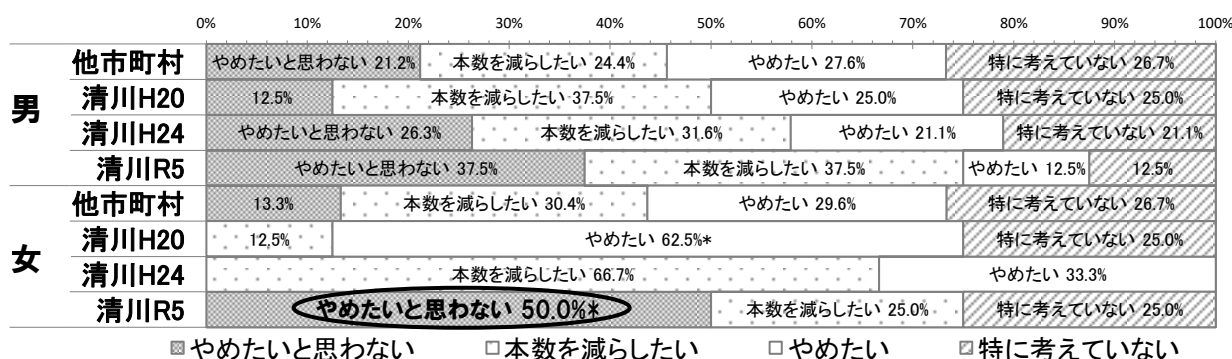
【ストレス処理】青年期で「まったく処理できていない」が多い

ストレス処理については、青年期では、「まったく処理できていない」が多くなっていました。



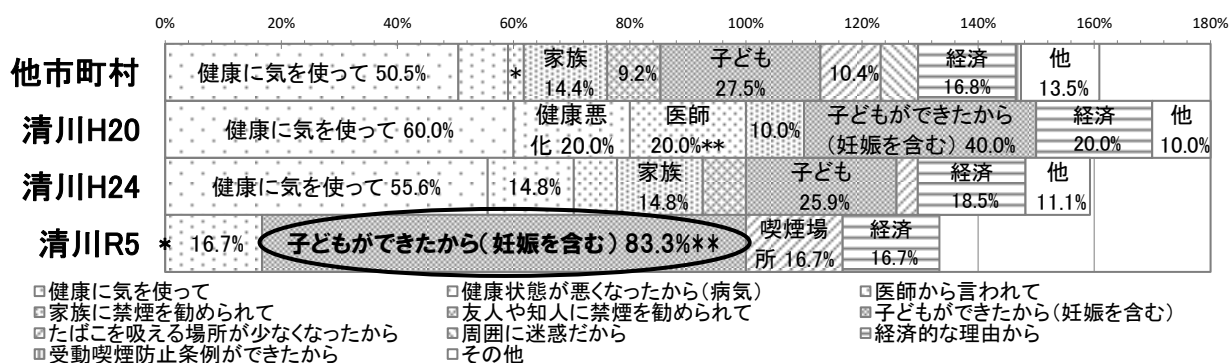
【禁煙意欲】女性で「やめたいと思わない」人が多い

禁煙意思について他市町・前々回・前回と比べると、青年期女性では、「やめたいと思わない」が多くなっていました。



【禁煙理由】青年期では「子どもができたから」が多い

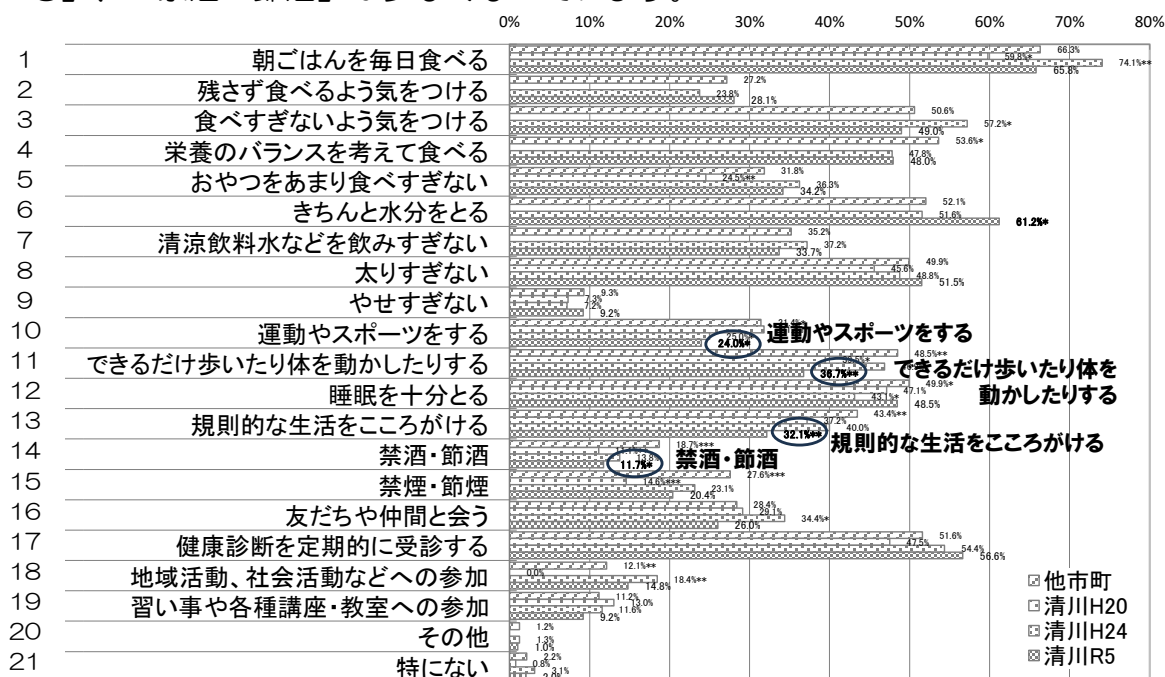
禁煙理由について他市町・前々回・前回と比べると、青年期では、「子どもができたから（妊娠を含む）」が多くなっていました。



6) 壮年期

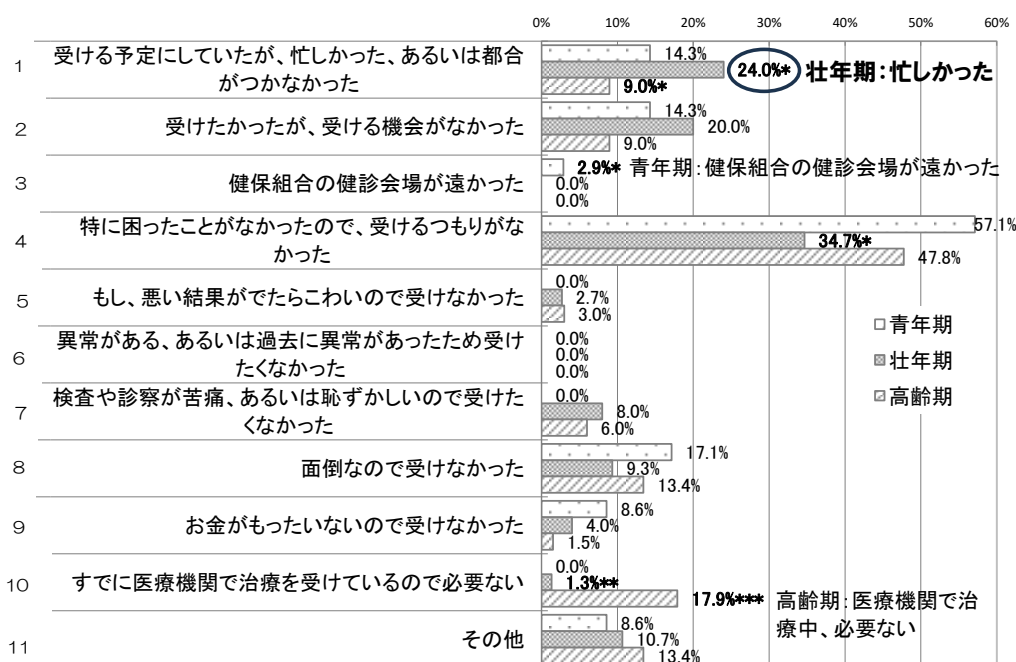
【健康法】健康法が減少している

健康法について他市町・前々回・前回と比べると、壮年期では、「運動やスポーツをする」、「できるだけ歩いたり体を動かしたりする」、「規則的な生活をこころがける」、「禁酒・節酒」が少なくなっています。



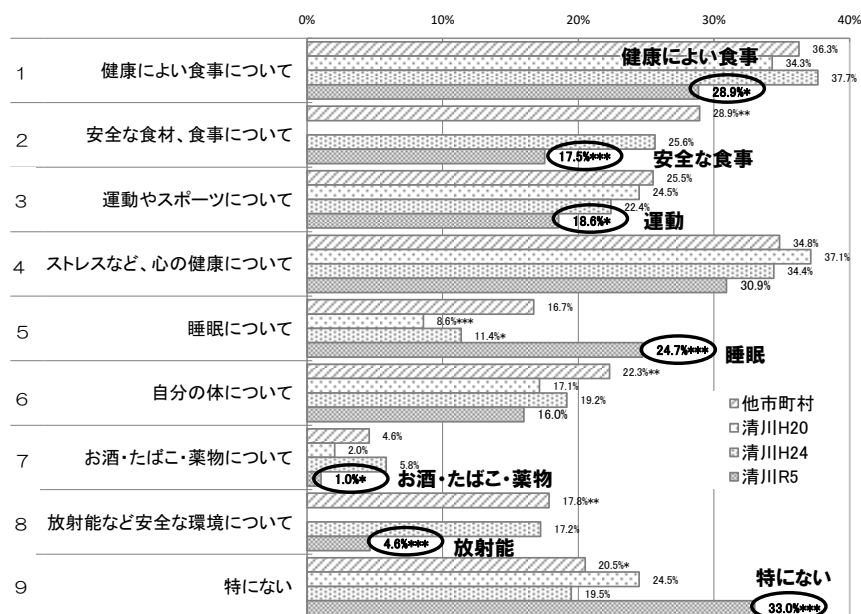
【がん検診不受診理由】壮年期では「忙しかった」が多い

検診を受けなかった理由としては、青年期、壮年期、高齢期とも「特に困ったことがなかった」が多かったので、受けるつもりがなかったが多く、症状がないときに行う検診の意義を理解していない人が多いことが分かります。壮年期では、「受ける予定にしていたが、忙しかった、あるいは都合がつかなかった」が多くなっていました。



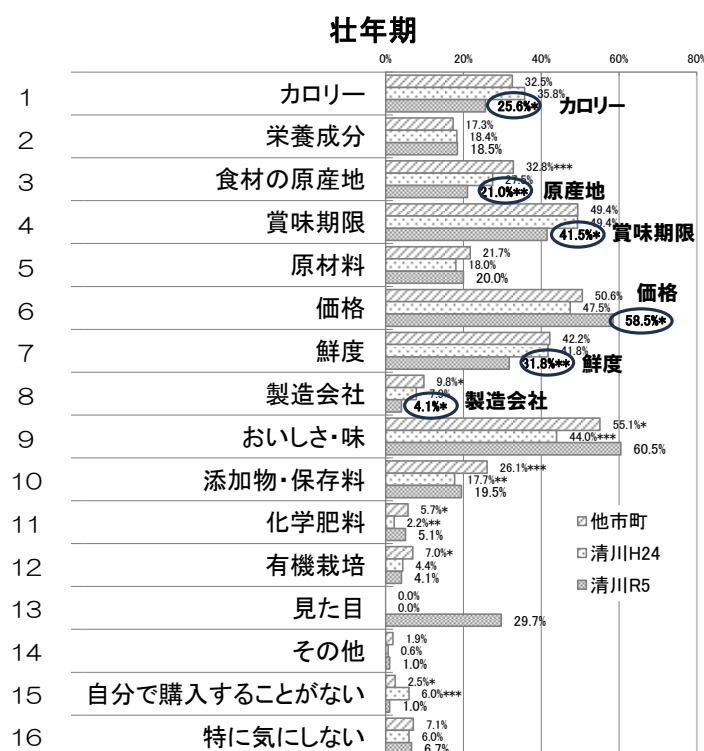
【ほしい健康情報】ほしい健康情報が減った

ほしい健康情報について他市町・前々回・前回と比べると、「睡眠について」、「特
にない」が多く、「健康によい食事について」、「安全な食材、食事について」、「運
動やスポーツについて」、「お酒・たばこ・薬物について」、「放射能など安全な環
境について」が少なくなっています。



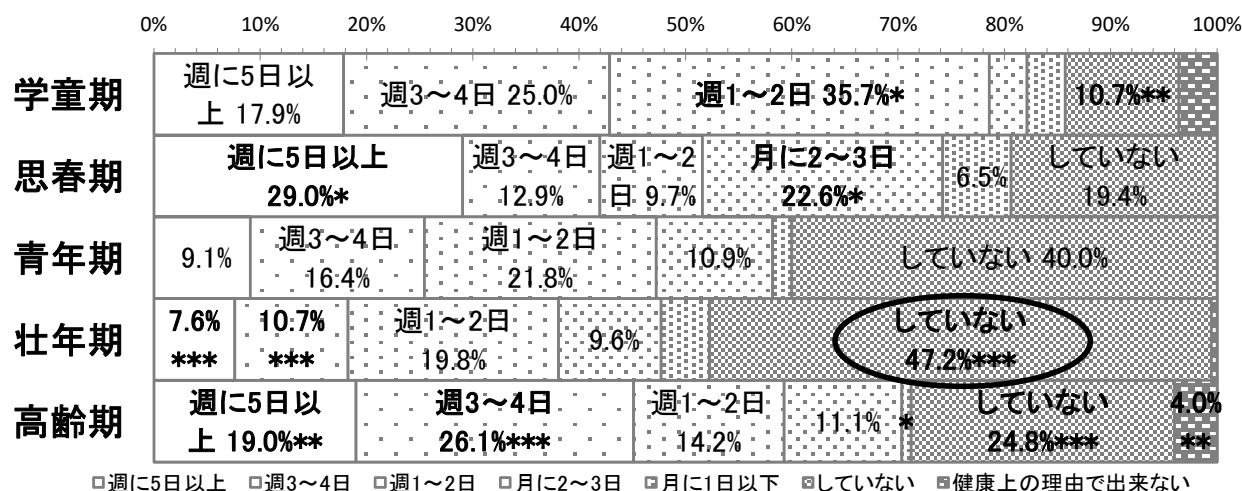
【食品購入の際の配慮】壮年期では配慮が少なくなった

食品購入の際の配慮について他市町・前々回・前回と比べると、壮年期では、「価
格」が多く、「カロリー」、「食材の原産地」、「賞味期限」、「鮮度」、
「製造会社」が少ないなど全般的に意識が低くなっていました。



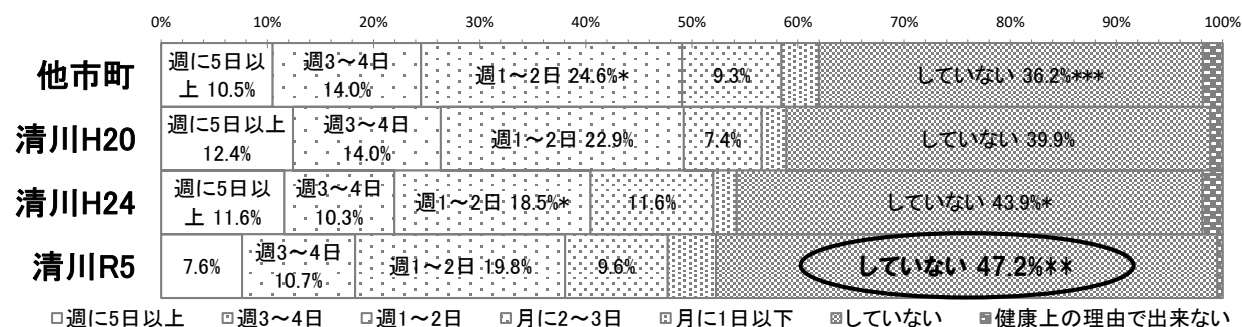
【運動の頻度】壮年期で運動をしていない人が多い

運動の頻度については、していない人は、壮年期で多くなっていました。



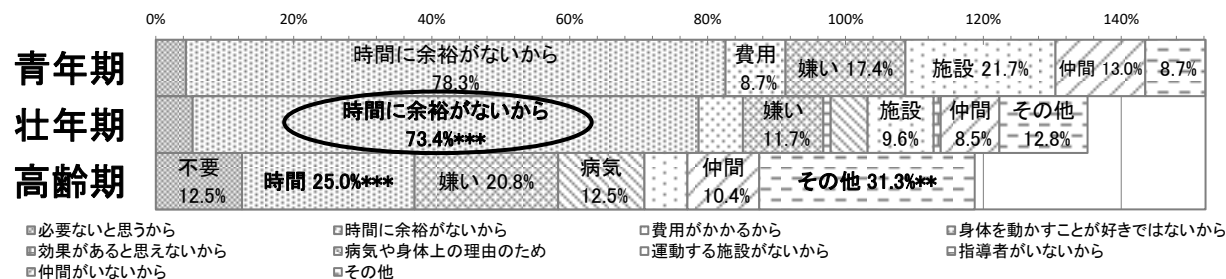
【運動の頻度】運動をしていない人が増加

運動の頻度について他市町・前々回・前回と比べると、壮年期では、「していない」がだんだん多くなっていました。



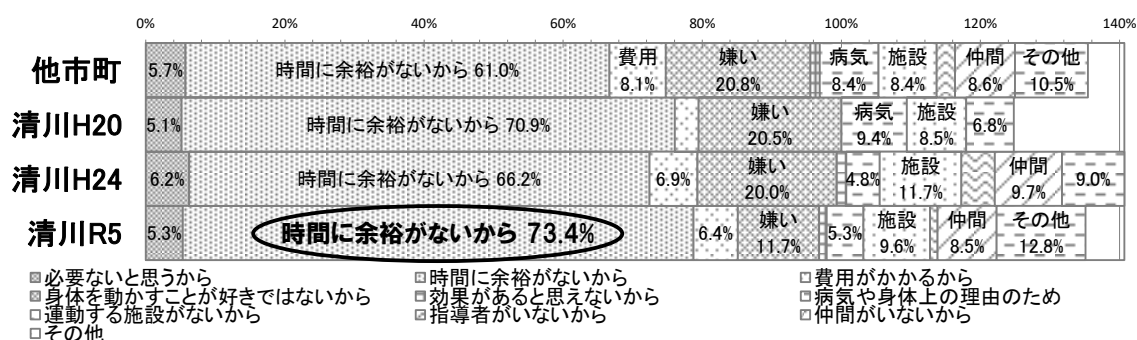
【運動しない理由】壮年期で「時間がないから」が多い

運動しない理由では、壮年期では、「時間に余裕がないから」が多くなっていました。



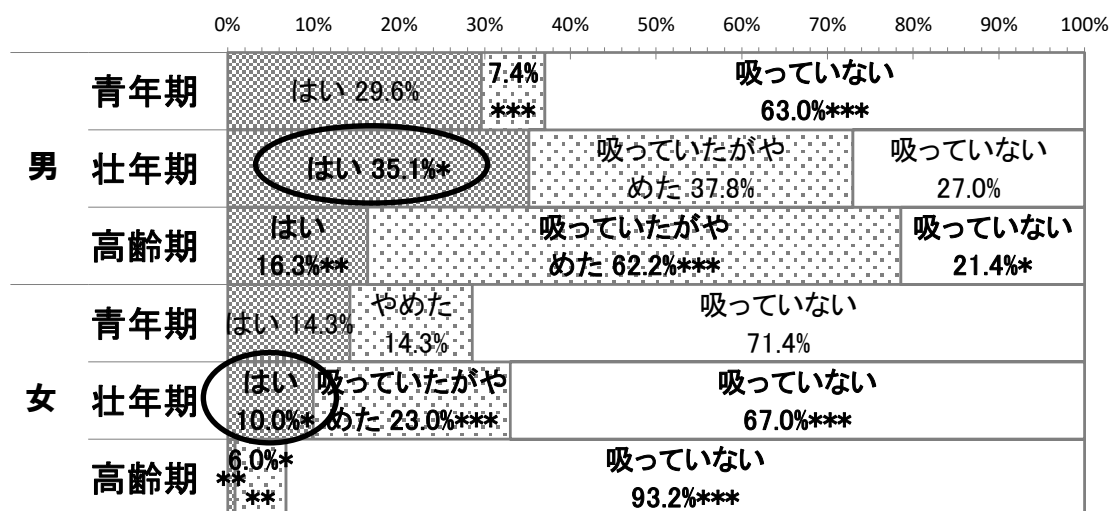
【運動しない理由】「時間に余裕がないから」が増加

運動しない理由について他市町・前々回・前回と比べると、壮年期では、「時間に余裕がないから」が多くなっていました。



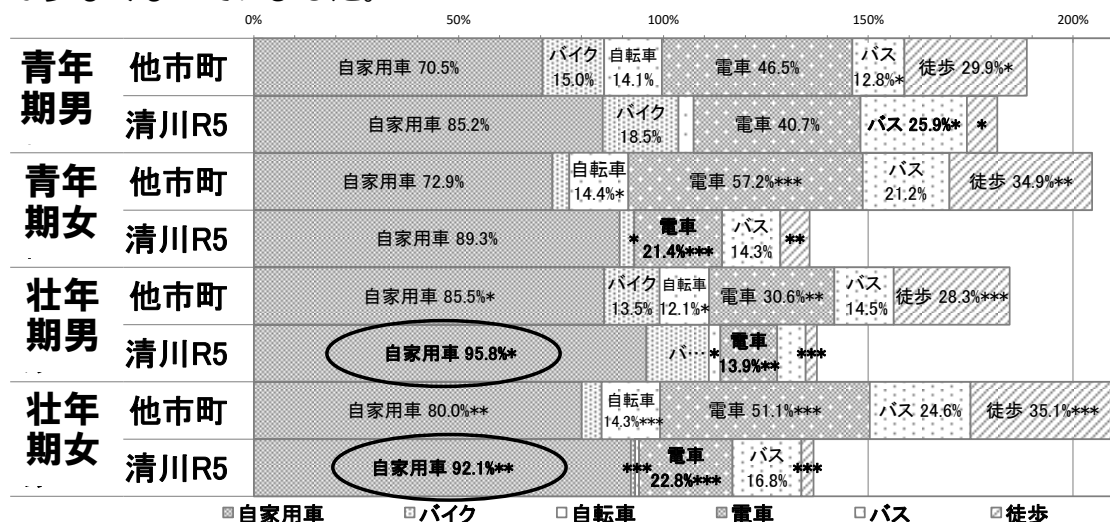
【喫煙状況】壮年期で喫煙している人が多い

喫煙状況は、男女とも壮年期で「はい」（現在吸っている）人が多くなっていました。



【外出手段】壮年期は自家用車が多い

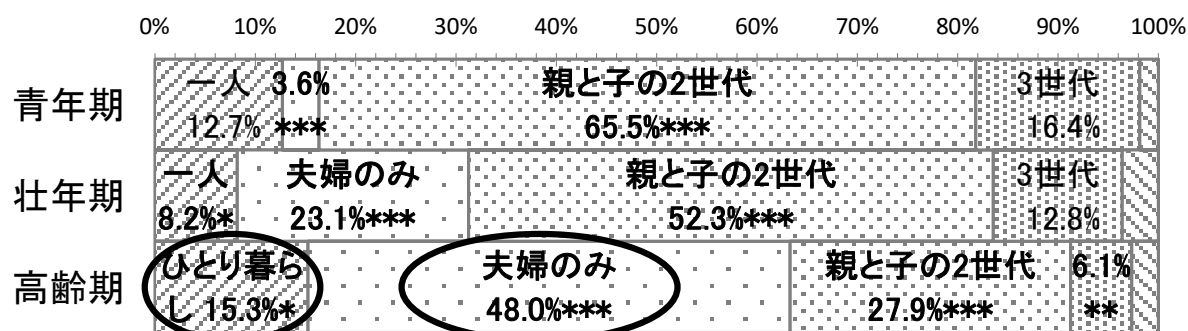
外出手段について他市町と比べると、全体的に自家用車が多く、自転車、電車、徒歩が少なくなっていました。



7) 高齢期

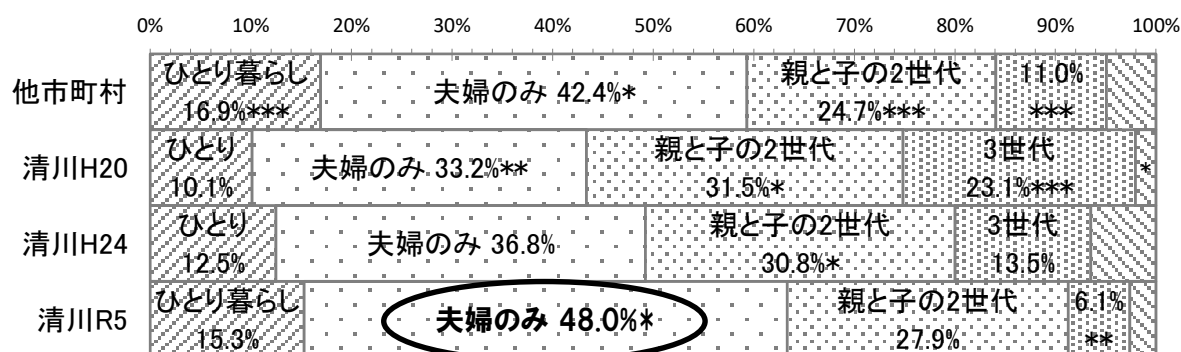
【同居者】ひとり暮らし、夫婦のみ世帯が多い

高齢期では、「ひとり暮らし」、「夫婦のみ」の世帯が多くなっていました。



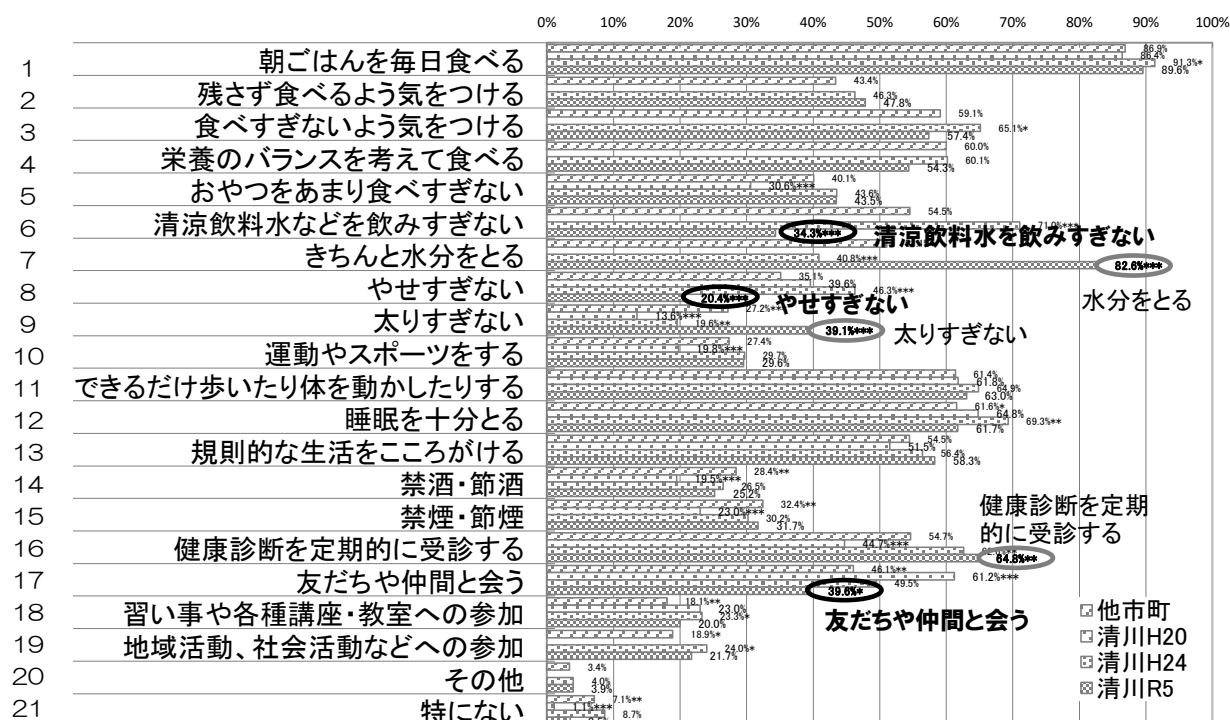
【同居者】3世代が減少、夫婦のみが増加

高齢期では、「夫婦のみ」が多く、「3世代」が少なくなっています。特に前々回・前回は「親と子の2世代」、「3世代」が多くなっていたのですが、減っています。



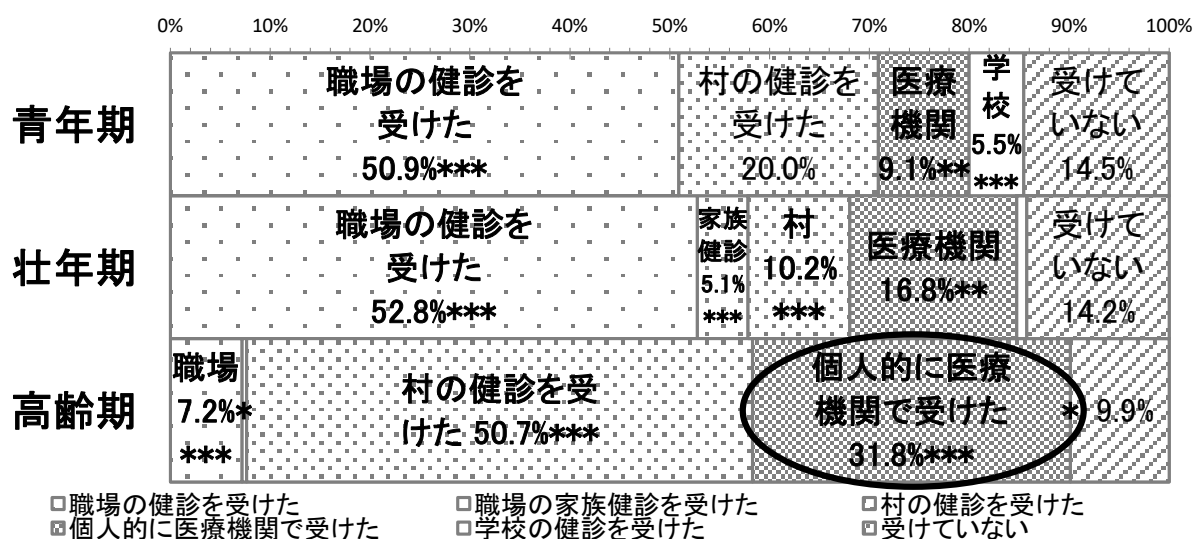
【健康法】健康法が変化

健康法について他市町・前々回・前回と比べると、高齢期では、「きちんと水分をとる」、「太りすぎない」、「健康診断を定期的に受診する」が多く、「清涼飲料水などを飲みすぎない」、「やせすぎない」、「友だちや仲間と会う」が少なくなっています。

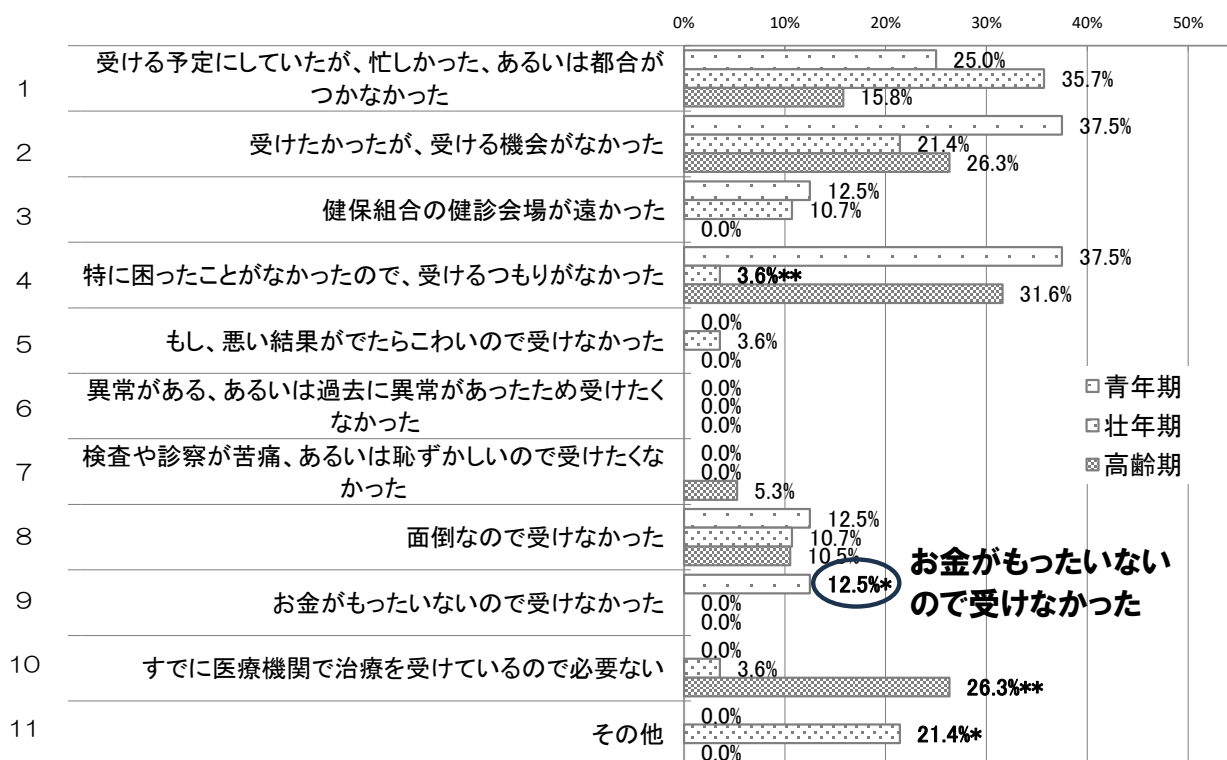


【健診受診状況】「個人的に医療機関で受けた」と回答する人が多い

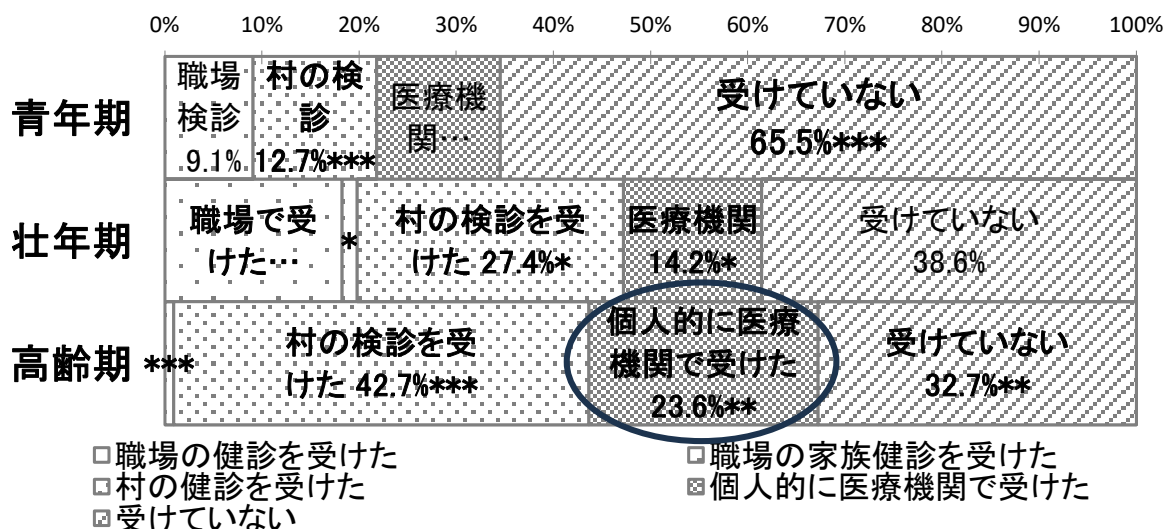
健診の受診状況では、「個人的に医療機関で受けた」という回答が多くなっていますが、これは「健診」ではなく、病気の「受診」を指している可能性もあるため、要注意です。



【健診不受診理由】「医療機関で治療中だから必要ない」と回答する人が多い
 健診を受けなかった理由としては、「すでに医療機関で治療を受けているので必要ない」が多い。高齢期では、健診を受けたという人でも、「個人的に医療機関で受けた」という回答が多くなっており、医療機関での受療と健診受診を混同して、結局健診を受けていない人が多いと考えられるので、要注意です。

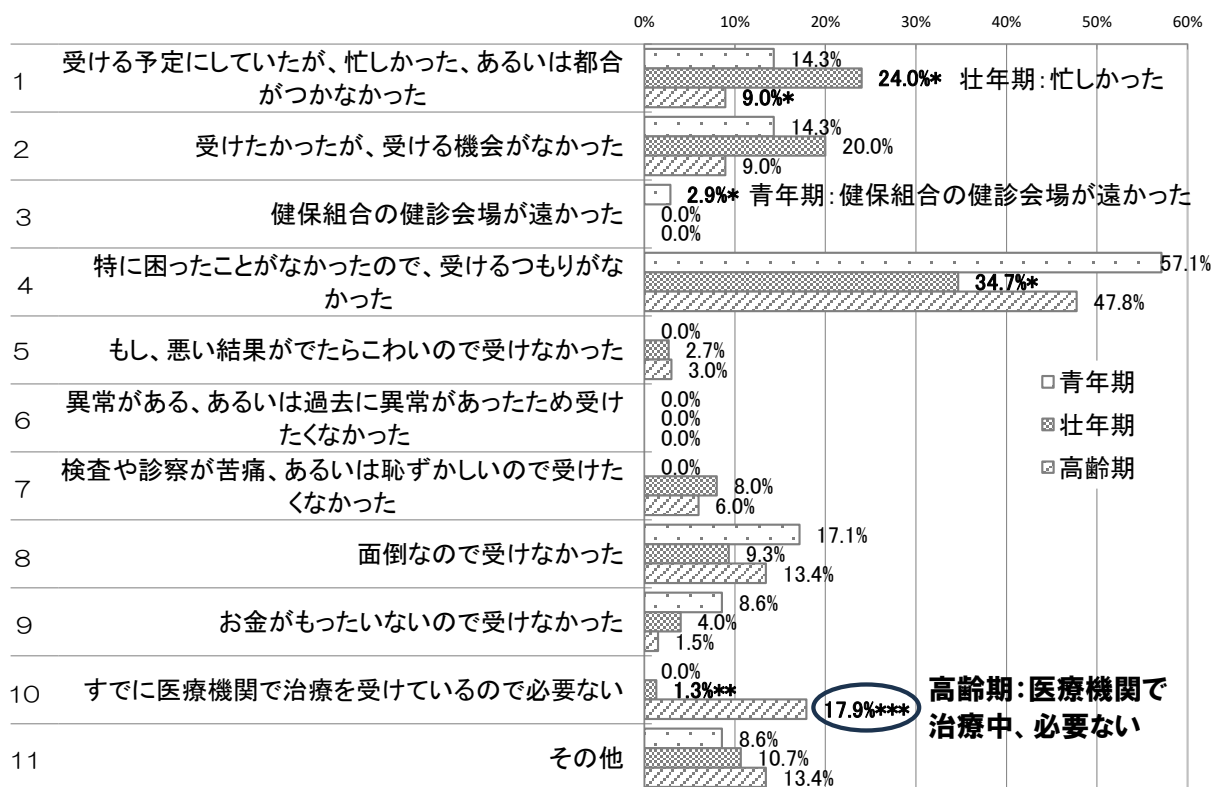


【がん検診受診状況】「個人的に医療機関で受けた」と回答する人が多い
 がん検診の受診状況では、高齢者では「個人的に医療機関で受けた」という回答が多く、病気の「受診」との混同があると思われます。



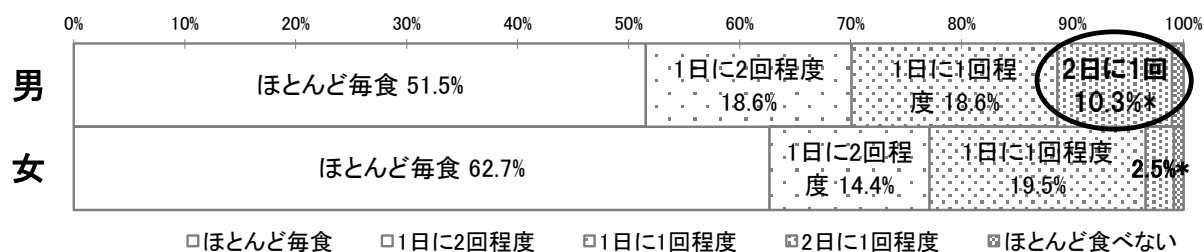
【がん検診不受診理由】「医療機関で治療中だから必要ない」と回答する人が多い

がん検診を受けなかった理由として、高齢期では「すでに医療機関で治療を受けているので必要ない」が多くなっていました。医療機関での受療と検診受診とを混同して、結局検診を受けていない人が多いと考えられるので、要注意です。



【肉、魚、卵、豆腐、納豆の摂取】男性で2日に1回が多い

高齢者についてはたんぱく質の摂取が低いための低栄養が想定されるため、たんぱく質の摂取について質問しました。その結果、男性では「2日に1回程度」が多くなっていました。



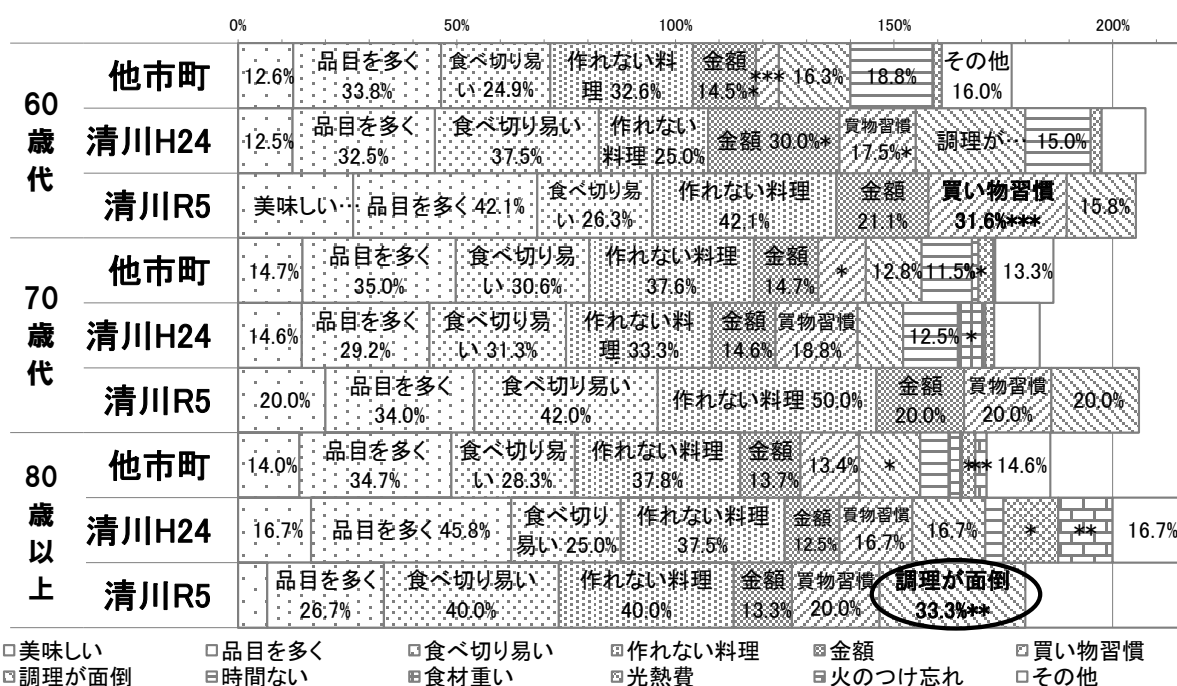
【弁当・惣菜利用頻度】弁当・惣菜の利用が増えている

外食・弁当・おかずの頻度について高齢期の年齢別にみると、いずれの年齢層でも「月に1～3回もしくはほとんどない」が少なくなり、「週に1～2回」が多くなっており、利用頻度が上がっていました。



【惣菜購入理由】80歳以上は「調理が面倒」が多い

惣菜購入理由について他市町・前々回・前回とくらべると、60歳台では、「スーパーやコンビニに行くのが習慣だから」が多い。80歳以上では、「調理が面倒だから、または作りたくないから」が多くなっていました。



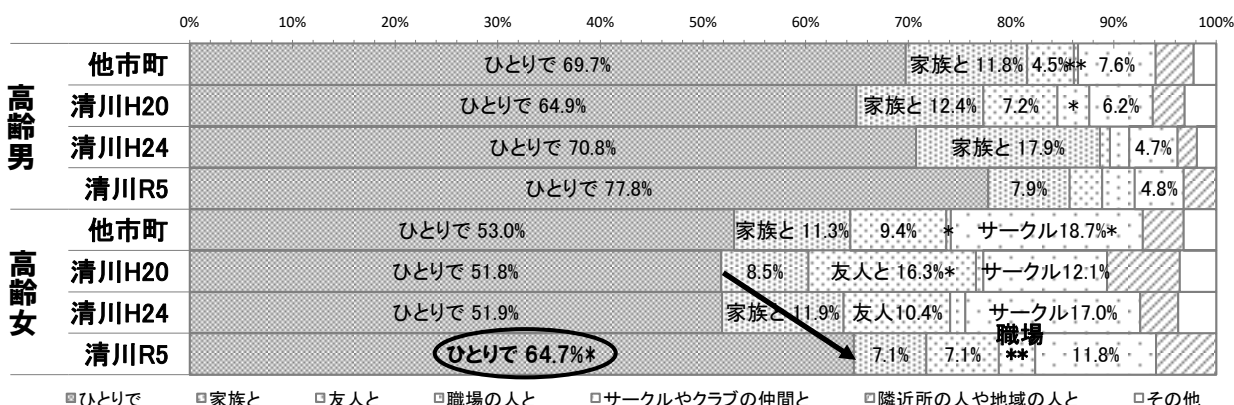
【食生活の課題】高齢期は改善意欲がない

食生活で困っていることを順位別にみると、高齢期では、男女とも1位が「特に課題はない」となっており、男性の2位は「ひとりで食べることが多い」となっています。食生活改善への介入の難しさが想定されます。

順位	青年期・男	順位	青年期・女	順位	壮年期・男	順位	壮年期・女	順位	高齢期・男	順位	高齢期・女
1	食事時間が不規則 37.0%	1	緑黄色野菜が少なすぎる 44.4%	1	夕食が遅い 24.3%	1	食べすぎる 23.8%	1	特に課題はない 38.9%	1	特に課題はない 31.6%
2	夕食が遅い 33.3%	2	摂取品目が少ない 37.0%	2	緑黄色野菜が少なすぎる 23.0%	2	特に課題はない 22.8%	2	ひとりで食べることが多い 23.2%	2	牛乳・乳製品が少なすぎる 20.2%
3	食べすぎる 33.3%	3	早食い 22.2%	3	特に課題はない 23.0%	3	摂取品目が少ない 20.8%	3	緑黄色野菜が少なすぎる 21.1%	3	緑黄色野菜が少なすぎる 19.3%
4	緑黄色野菜が少なすぎる 29.6%	4	牛乳・乳製品が少なすぎる 22.2%	4	早食い 20.3%	4	緑黄色野菜が少なすぎる 18.8%	4	脂肪の多い料理や油を使った料理が多すぎる 15.8%	4	ひとりで食べることが多い 18.4%
5	牛乳・乳製品が少なすぎる 18.5%	5	夕食が遅い 18.5%	5	摂取品目が少ない 17.6%	5	脂肪の多い料理や油を使った料理が多すぎる 16.8%	5	塩分が多すぎる 15.8%	5	肉や魚が少なすぎる 14.0%

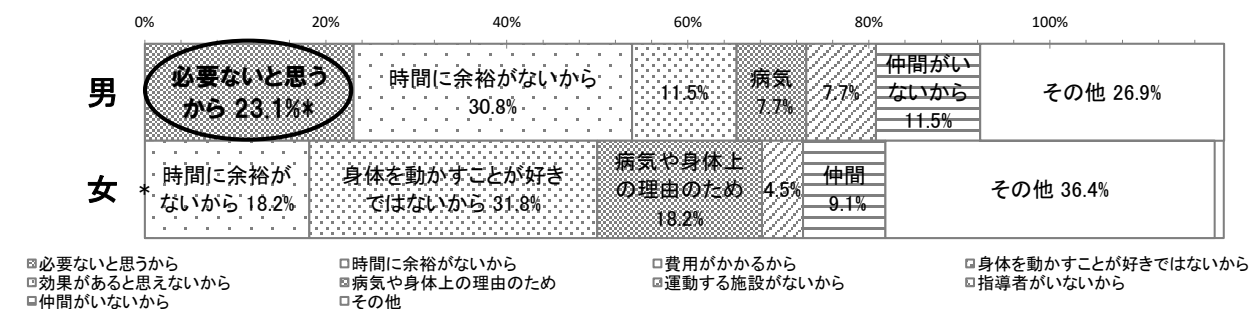
【運動仲間】女性は「ひとりで」が増加

運動仲間について他市町・前々回・前回と比べると、高齢期・女性では、「ひとりで」、「職場の人と」が多くなっていました。



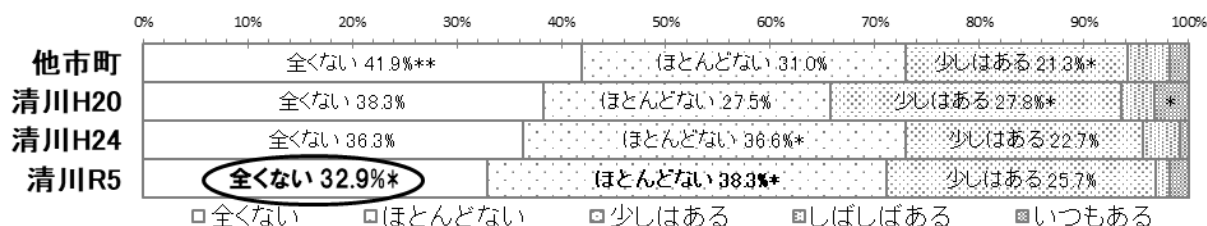
【運動しない理由】高齢期男性で「必要ないと思うから」が多い

運動しない理由では、高齢期・男性では、「必要ないと思うから」が多くなっていました。



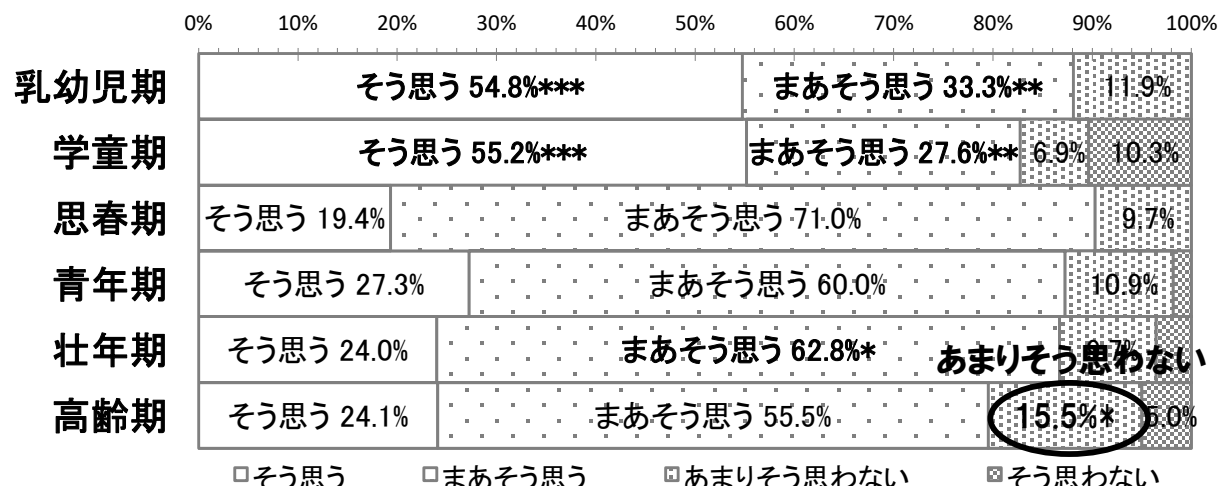
【憂鬱】「全くない」が減った

憂鬱について他市町・前々回・前回と比べると、高齢期では、「ほとんどない」が多く、「全くない」が少なくなっていました。



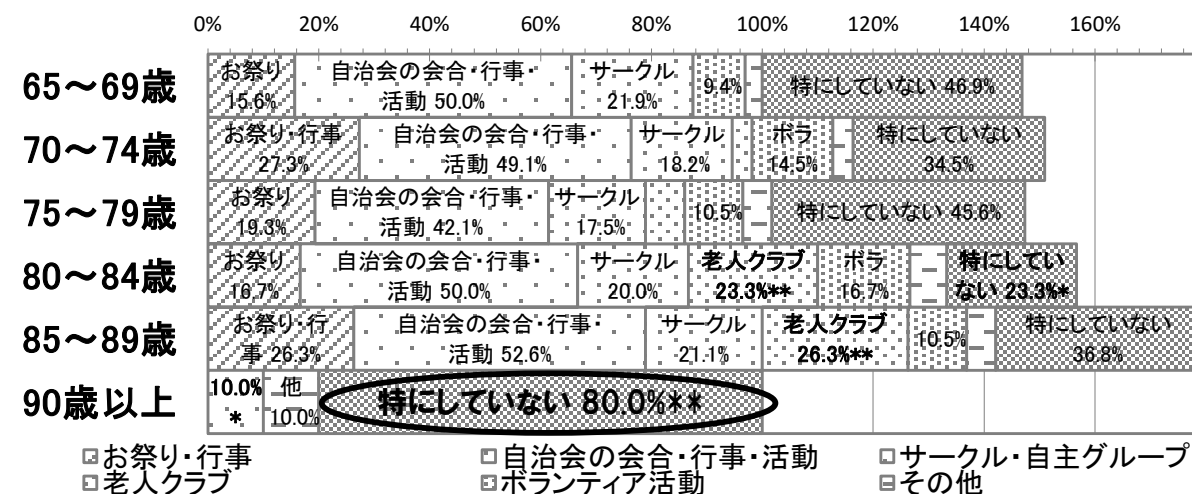
【自分は大切にされているか】「あまりそう思わない」が多い

自分は大切にされているかについては、高齢期では「あまりそう思わない」が多くなっていました。



【社会活動参加】90歳以上だと参加しない人が多い

高齢期の社会活動参加は、80歳代で「老人クラブ」が多い。90歳以上では、「特にしていない」が多くなっています。



【スマホを持っているか】高齢期でも若いほどスマホを持っている

高齢期でスマホを持っているかについては、年齢が上がるほど保有率が低くなっていました。65～69歳では、「持っていて 既存の機能の他、インターネットのページを検索して見ることがある」、「持っていて 既存の機能の他、アプリをダウンロードして使うことがある」が多い。70～74歳では、「持っていて 既存の機能の他、アプリをダウンロードして使うことがある」が多くなっていました。

